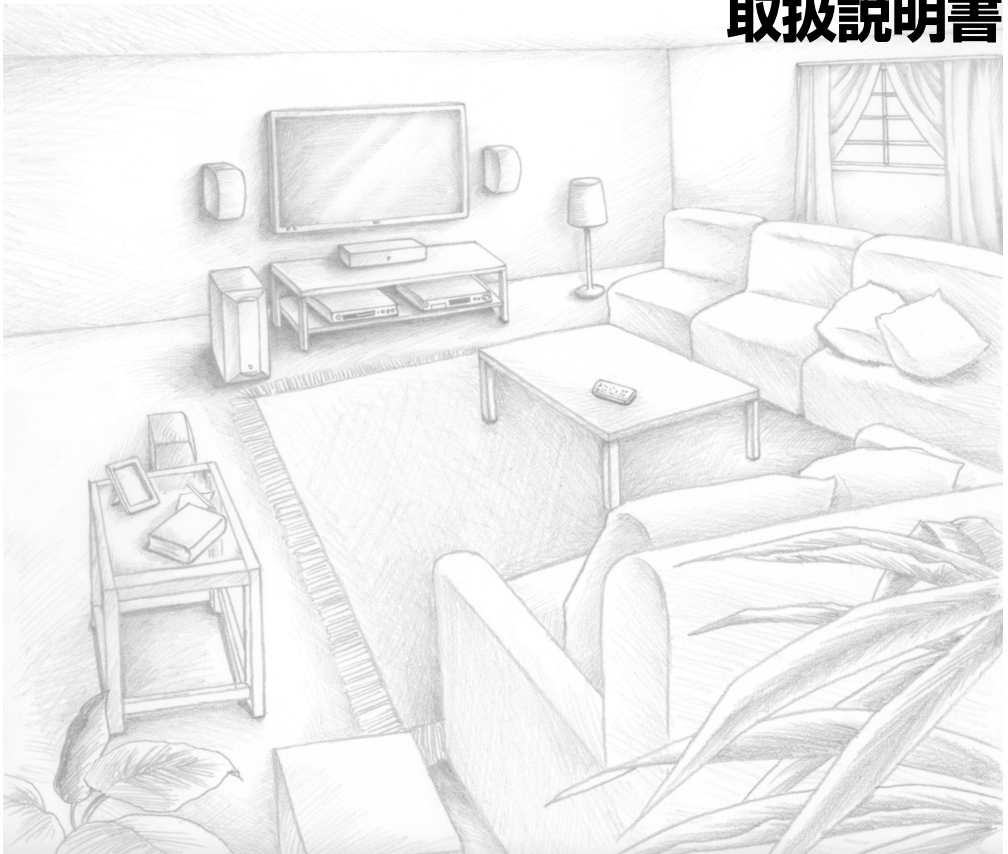
DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

RX-SL100

取扱説明書

ヤマハ DSP AVアンプRX-SL100をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえば は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室·台所·海岸·水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解·改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理·調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん·カーペットの上には設置しない。
- あおむけや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

- 機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。
感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。
それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

必ず行う

屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。

本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)、選択した入力ソース、音量、セットメニューの設定、プリセットされた放送局などは本機に記憶されています。ただし、電源を切った状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。そのような場合はもう一度設定しなおしてください。

- セットメニューの各種設定(→P.57)
- 登録した放送局(→P.39)
- 音場プログラムの設定
  入力ごとに選んだ音場プログラム(→P.37)
  パラメーターの設定(→P.68)

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC IIx

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts ES neo:6

DTS、DTS-ES Extended SurroundおよびNeo:6はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

AACロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

目　次

そのほかの情報

はじめに

本書の記載について

● アドバイス は操作上の補足的な説明や知っておくと便利な事項を示します。

● **お願い...** は、操作上必ず行っていただきたいポイントを示します。

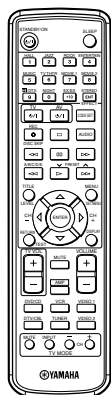
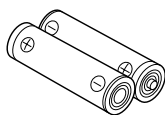
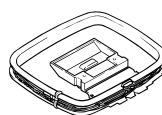
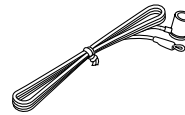
● 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。

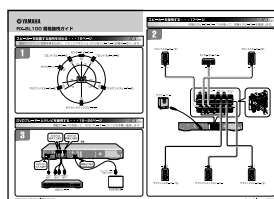
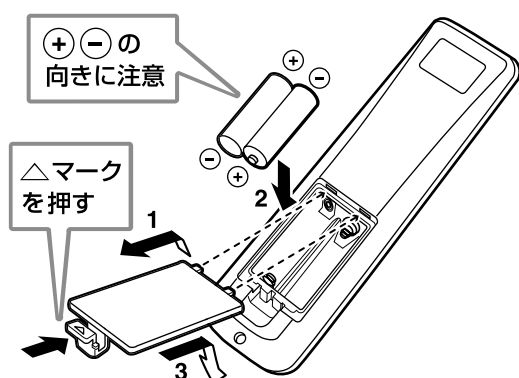
● 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されております。その後、操作性の向上、そのほかの理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。

● 説明の便宜上、文中のイラストや名称等が実際の製品や梱包箱等と異なる場合があります。

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単3乾電池（2本）

AMループアンテナ

FM簡易アンテナ

ケーブルタグ
（赤×2、白×2、緑×2、
灰×2、青×2、茶×2）

簡易接続ガイド

リモコンに電池を入れる

1. 裏ぶたの△マークを押しながら裏ぶたを取り外す。
2. 付属の単3乾電池(2本)を、+と−の向きに注意してリモコンの電池ケースに入れる。
3. 裏ぶたを閉じる。

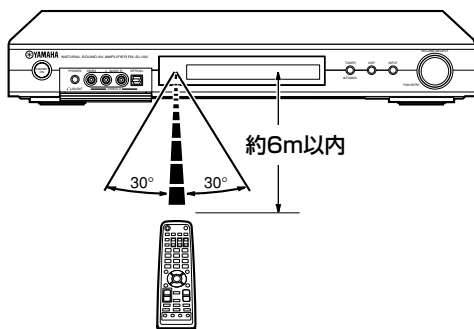
リモコンの乾電池についてのご注意

- 乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなったり、キーを押しても本機の操作ができなくなったりします。このような場合は、すべて新しい乾電池に交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

注 意

- 電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、消耗した乾電池をリモコンにそのまま入れておくと、リモコンに設定したメーカーコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードを設定してください。→P.75「リモコンを使いこなす」

リモコンの使用範囲

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶をこぼしたりしないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  −ストーブのそばや風呂場など、温度･湿度の高いところ。
  −ほこりの多いところ。
  −極端に寒いところ。

各部の名称とはたらき

前面

チューナー　オート　マニュアル
TUNER (AUTO/MAN'L)キー
入力がTUNERのときに使えます。
手動(マニュアル)選局または自動(オート)選局を選択します。また、プリセット局の番号を選ぶときにも使います。(→P.38)

🎧 ヘッドホン端子
ヘッドホンを接続します。音場プログラムを選択すると「サイレントシアター」で音声を楽しめます。(→P.54)

インプット
INPUTキー
ソースを選ぶ:INPUTキーを押し、再生したいソースが表示されるまでVOLUME/SELECTつまみを回してください。(→P.32)
入力モードを選ぶ:同じ機器をデジタル音声入力端子と音声入力端子(アナログ)に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定できます。(→P.70)

ビデオ
VIDEO 2端子
ゲーム機やビデオカメラレコーダーなどを接続する予備入力端子です。(→P.20)
入力するには、リモコンのVIDEO 2キーを押して「VIDEO 2」を表示させます。本体のINPUTキーを押してからVOLUME/SELECTつまみを回しても選べます。

スタンバイ　オン
STANDBY/ONスイッチ
本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。
電源を入れて数秒間は音が出ません。
スタンバイ状態のときは、リモコンからの赤外線信号を受信するために少量の電力を消費します。

ディスプレイ
プログラムの名称や設定値、再生時の情報などを表示します。(→P.15)

ディーエスピー
DSPキー
音場プログラムを選択する:DSPキーを押し、お好みの音場プログラムが表示されるまでVOLUME/SELECTつまみを回してください。(→P.37)
STEREO再生にする:DSPキーを押してSTEREOを表示させます。(→P.53)

リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

ボリューム　セレクト
VOLUME/SELECTつまみ
音量を調節する:全体の音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。
次のキーを押すとVOLUME/SELECTつまみの機能が切り替わります。
TUNER (AUTO/MAN'L)キー: 入力がTUNERのときにFM/AM放送局を選局できます。
DSPキー :お好みの音場プログラムを選べます。
INPUTキー :再生したい入力ソースを選べます。

リモコン

リモコンで本機を操作するときは、はじめにAMPキーを押してアンプ操作モードにしてください。下の図の中で ▭ はAMPキーを押さなくても操作できるキーを示し、▭ はTUNER入力のときに操作できるキーを示しています。

アドバイス

- 名称が青色で表示されているキーは、アンプ操作モードのときの操作キーです。

ディスプレイ

デコーダー表示
本機内蔵のデコーダーが働くと、そのデコーダー表示が点灯します。

NIGHT表示
ナイトリスニングモードのときに点灯します。

ヘッドホン表示
ヘッドホン端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

CINEMA DSP表示
CINEMA DSP音場プログラムを選ぶと点灯します。

HiFi DSP表示
HiFi DSP音場プログラムを選ぶと点灯します。

STEREO表示
AUTO表示が点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

入力ソース表示
入力しているソース表示の ＿＿」が点灯します。

TUNED表示
FM／AM放送を受信すると点灯します。

VOLUME表示
現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて右側に表示が増えていきます。

MUTE表示
MUTEキーを押して、音量を下げている間点滅します。

「SILENT THEATER」*表示
ヘッドホンで音場プログラムが楽しめる、「サイレントシアター」*のときに点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ
音場プログラム名や各種設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

VIRTUAL表示
バーチャルシネマDSPにすると点灯します。

PCM表示
CDなどのPCM信号の再生中に点灯します。

AUTO表示
チューナーモードのオート選局やオートプリセットのとき点灯します。

DUAL表示
BSデジタル放送などで使われる、モノラル二重音声を出力するときに点灯します。

LFE表示
入力信号にLFEが含まれているときに点灯します。

入力信号チャンネル表示
再生ソースのデジタル信号に含まれる音声チャンネルに対応した表示が点灯します。

MEMORY表示
FM／AM放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。

SLEEP表示
スリープタイマーをセットすると点灯します。

*「サイレントシアター／SILENT THEATER」はヤマハ株式会社の登録商標です。

スピーカーを設置する

音場効果を十分に味わうために、スピーカーを適切な位置に設置し、本機と確実に接続してください。

スピーカーの設置場所を決める

スピーカーは次のように配置してください。

センタースピーカー

左右のフロントスピーカーの中間に設置します。テレビ(モニター)の上や下など、できるだけテレビ(モニター)画面に近い場所に設置します。画面の中央線上の位置に、画面とスピーカーの前面をそろえて設置するとより理想的です。

センタースピーカーからは会話やボーカルなどのセンターチャンネルの音声が出力されます。

センタースピーカー
フロントスピーカー(L)
フロントスピーカー(R)
サラウンドスピーカー(R)
1.5～1.8m
サブウーファー
サラウンドバックスピーカー
サラウンドスピーカー(L)

フロントL／Rスピーカー

左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。両スピーカーの中央にテレビ(モニター)がくるように設置してください。

フロントL／Rスピーカーからはフロントチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音が出力されます。

サラウンドL／Rスピーカー

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

サラウンドスピーカーからはサラウンドと効果音が出力されます。

サブウーファー

前方左右どちらかの壁面寄りで、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聞こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

サブウーファーは低音域の音響効果を向上させます。低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタル、DTSやAACに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。

サラウンドバックスピーカー

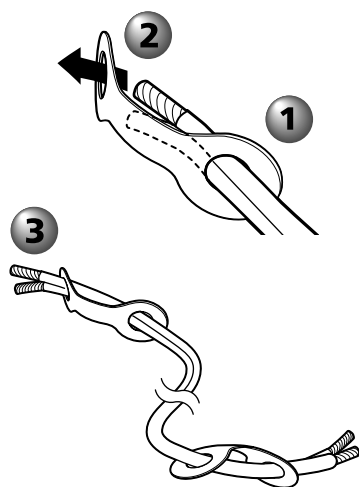
後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

サラウンドバックスピーカーからはサラウンドが出力され、音の前後の移動感を演出します。

スピーカーを接続する

ケーブルタグを取り付ける

接続の前に付属のケーブルタグをスピーカーケーブルの両端に取り付けておくと、ケーブルの配線がわかりやすく大変便利です。
スピーカーケーブルを適切な長さに切断したあと、スピーカー端子と同じ色のタグを各スピーカーケーブルに取り付けてください。

ケーブルタグの色	スピーカーケーブル
赤	フロント右
白	フロント左
緑	センター
灰	サラウンド右
青	サラウンド左
茶	サラウンドバック

1 ケーブルタグの片方の穴にスピーカーケーブルを通す。

2 もう片方の穴にもスピーカーケーブルを通す。

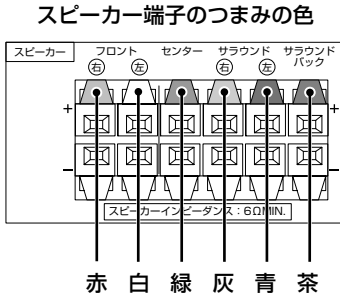
3 手順 1、2 にしたがい、スピーカーケーブルのもう一方の端にも同じ色のタグを取り付ける。
すべてのスピーカーケーブルにタグを取り付けてください。

アドバイス

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など（音色）が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーの使用をおすすめします。
  同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのスピーカーで、スピーカーシステムを揃えることをおすすめします。
- スピーカーインピーダンスが6Ω以上のスピーカーをお使いください。
- スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください。防磁型以外のスピーカーを使用すると、テレビ（モニター）に映る映像が乱れることがあります。特に画面近くに設置する必要のあるセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーのご使用をおすすめします。
- 防磁型スピーカーをお使いの場合でもテレビ（モニター）の映像が乱れるときは、スピーカーをテレビ（モニター）と離して設置してください。

注 意

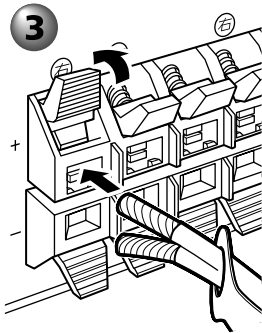
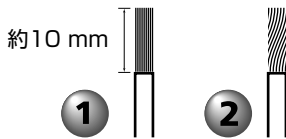
- 6スピーカーシステムでお使いにならないときは、お使いになるスピーカーにあわせて、アンプの出力設定を変更してください。→P.30「部屋の大きさやスピーカーシステムにあわせて出力設定する−Speaker Set Up（スピーカー設定）」、P.59「音声出力を設定する−SOUND menu（音声設定）」

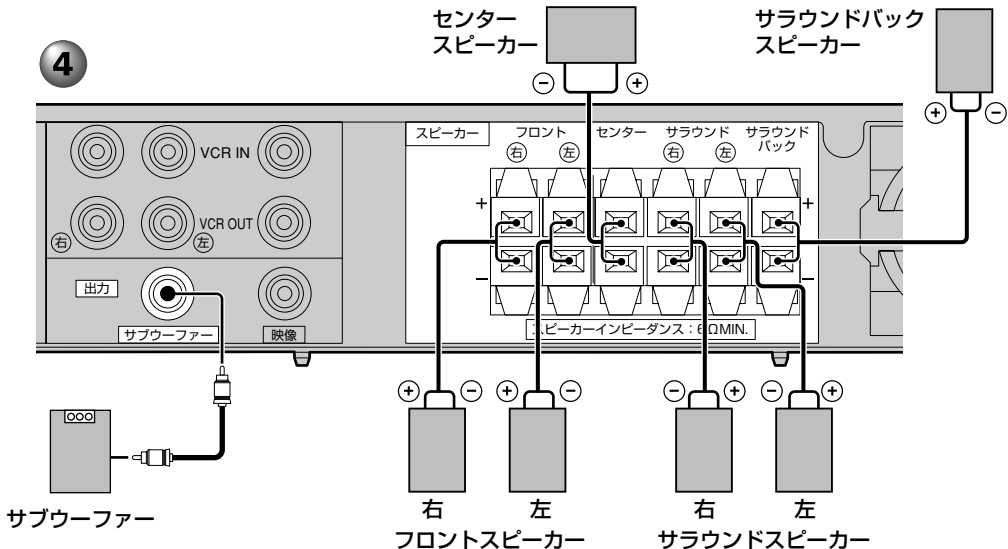
本機とスピーカーケーブルを接続する

本機のスピーカー端子の＋側つまみは、6色に色分けされています。取り付けたケーブルタグとつまみの色が合うようにスピーカーケーブルを接続します。
右チャンネル、左チャンネル、「＋」、「－」を確認して正しく接続してください。極性（＋、－）を間違えて接続すると不自然な再生音になります。

スピーカー端子のつまみの色

- スピーカーやすべての機器の接続が終わるまで、電源コードをACコンセントに接続しないでください。

重要

- スピーカーケーブルを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、本機の保護回路が働いて自動的にスタンバイ状態になりますが、故障の原因になる恐れがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

一般的にスピーカーケーブルは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

1. **スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約10mmぐらいはがす。**
2. **芯線をしっかりとよじる。**
   しっかりよじらないと、ショート（接触）の原因になります。
3. **つまみを押さえながら、芯線を穴に差し込む。**
   指を離すとつまみが戻り、芯線が固定されます。
4. **お使いになるすべてのスピーカーをスピーカー端子に正しく接続する。**

再生機器や録音・録画機器を接続する

接続をはじめる前に

接続に関しての注意

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。
- 右チャンネル、左チャンネル、入力(IN)、出力(OUT)などを確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子の名前が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 端子名は入力選択キーに対応しています。

デジタル端子の接続

本機は、同軸ケーブルや光ファイバーケーブル経由で、デジタル信号を直接伝送できるデジタル端子(同軸入力または光入力)を装備しています。デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送AモードからCDやMDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。また、DVDディスクの96kHzにも対応しています。

注 意

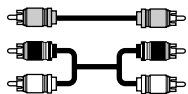
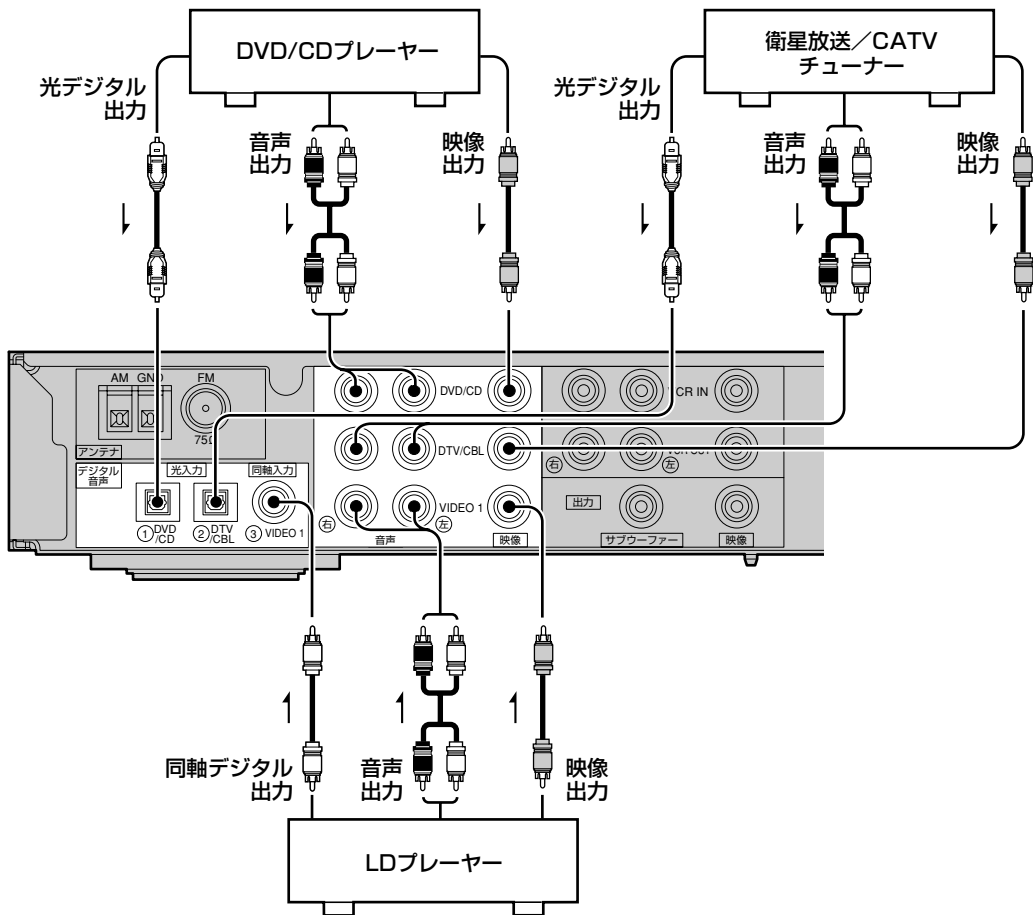
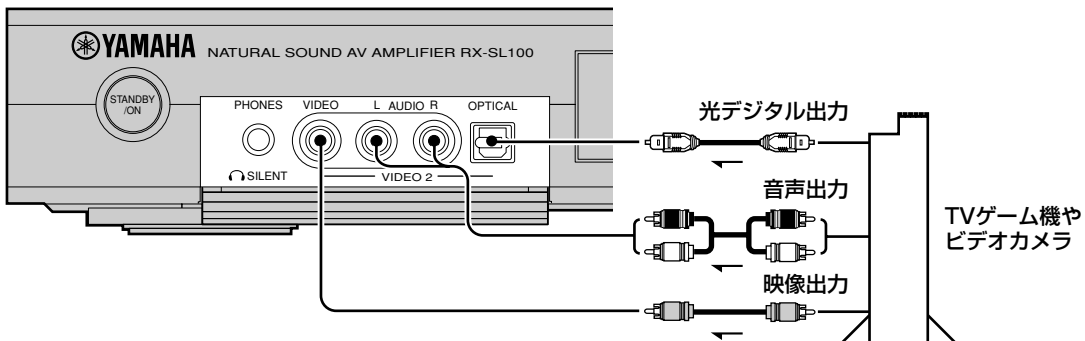
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、デジタル音声端子から入力した信号はアナログ出力端子(VCR OUT)には出力されません。
- 本機の光入力端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

再生機器を接続する

→ 信号の流れ

DVD/CDプレーヤー
光デジタル出力
音声出力
映像出力

衛星放送／CATVチューナー
光デジタル出力
音声出力
映像出力

AM GND
FM
75Ω
アンテナ
デジタル音声
光入力
同軸入力
① DVD/CD
② DTV/CBL
③ VIDEO 1
DVD/CD
DTV/CBL
VIDEO 1
右
左
音声
映像
VCR IN
出力
サブウーファー
映像

同軸デジタル出力
音声出力
映像出力
LDプレーヤー

前面

DVD/CDプレーヤーを接続する

DVD/CDプレーヤーの光デジタル出力端子をDVD/CD光入力端子に接続します。また、DVDプレーヤーの映像出力端子をDVD/CD映像入力端子に接続します。

アドバイス

- DVDプレーヤーに光デジタル出力端子がない場合は、同軸デジタル出力端子を同軸入力端子に接続します。この場合は、INPUTメニューの「Input Assign」で、接続した端子の割り当てを変更することをおすすめします。(→P.64)
- デジタル出力端子がない場合は、音声出力端子をDVD/CD音声入力端子に接続します。

衛星放送／CATVチューナーを接続する

衛星放送／CATVチューナーの光デジタル出力端子をDTV/CBL光入力端子に接続します。また、衛星放送／CATVチューナーの映像出力端子をDTV/CBL映像入力端子に接続します。

アドバイス

- 衛星放送／CATVチューナーに光デジタル出力端子がない場合は、音声出力端子をDTV/CBL音声入力端子に接続します。

LDプレーヤーを接続する

LDプレーヤーの同軸デジタル出力端子をVIDEO 1同軸入力端子に接続します。また、LDプレーヤーの映像出力端子をVIDEO 1映像入力端子に接続します。

アドバイス

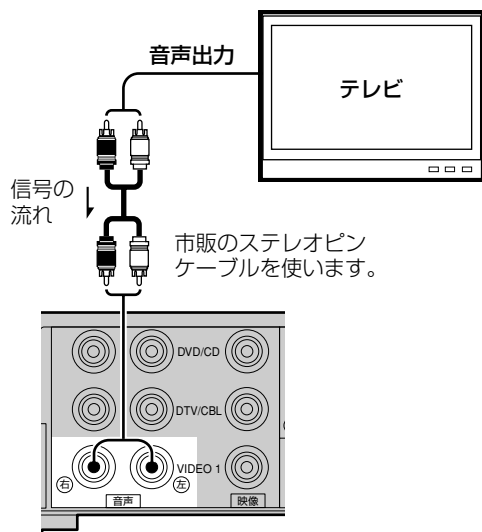
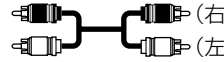
- LDプレーヤーに同軸デジタル出力端子がない場合は、音声出力端子をVIDEO 1音声入力端子に接続します。
- ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターに接続してから、空いている光デジタル入力または同軸デジタル入力端子に接続します。

TVゲーム機やビデオカメラを接続する

TVゲーム機やビデオカメラの光デジタル出力端子を本機の前面にあるVIDEO 2のOPTICAL端子に接続します。また、TVゲーム機やビデオカメラの映像出力端子をVIDEO 2のVIDEO端子に接続します。

アドバイス

- ゲーム機に光デジタル出力端子がない場合は、音声出力端子をVIDEO 2のAUDIO端子に接続します。

テレビの音声出力を接続する

本機に接続したスピーカーでテレビ番組の音声を楽しめます。テレビの音声出力端子を本機の音声入力端子に接続してください。入力選択キーを押してテレビを接続した入力を選ぶと、テレビの音声が本機に接続したスピーカーから聞こえます。テレビの音声を音場プログラムでもお楽しみいただけます。

録音・録画機器、テレビ（モニター）を接続する

録画機器（映像系）または録音機器（音楽系）のどちらかを接続できます。

→ 信号の流れ

録画機器

DVDレコーダーや
ビデオデッキ

音声
出力

映像
出力

音声
入力

映像
入力

AM GND FM
75Ω
アンテナ
デジタル
音声
光入力
同軸入力
①DVD/CD ②DTV/CBL ③VIDEO 1
DVD/CD
DTV/CBL
VIDEO 1
右 左
音声
映像
VCR IN
VCR OUT
出力
サブウーファー
映像

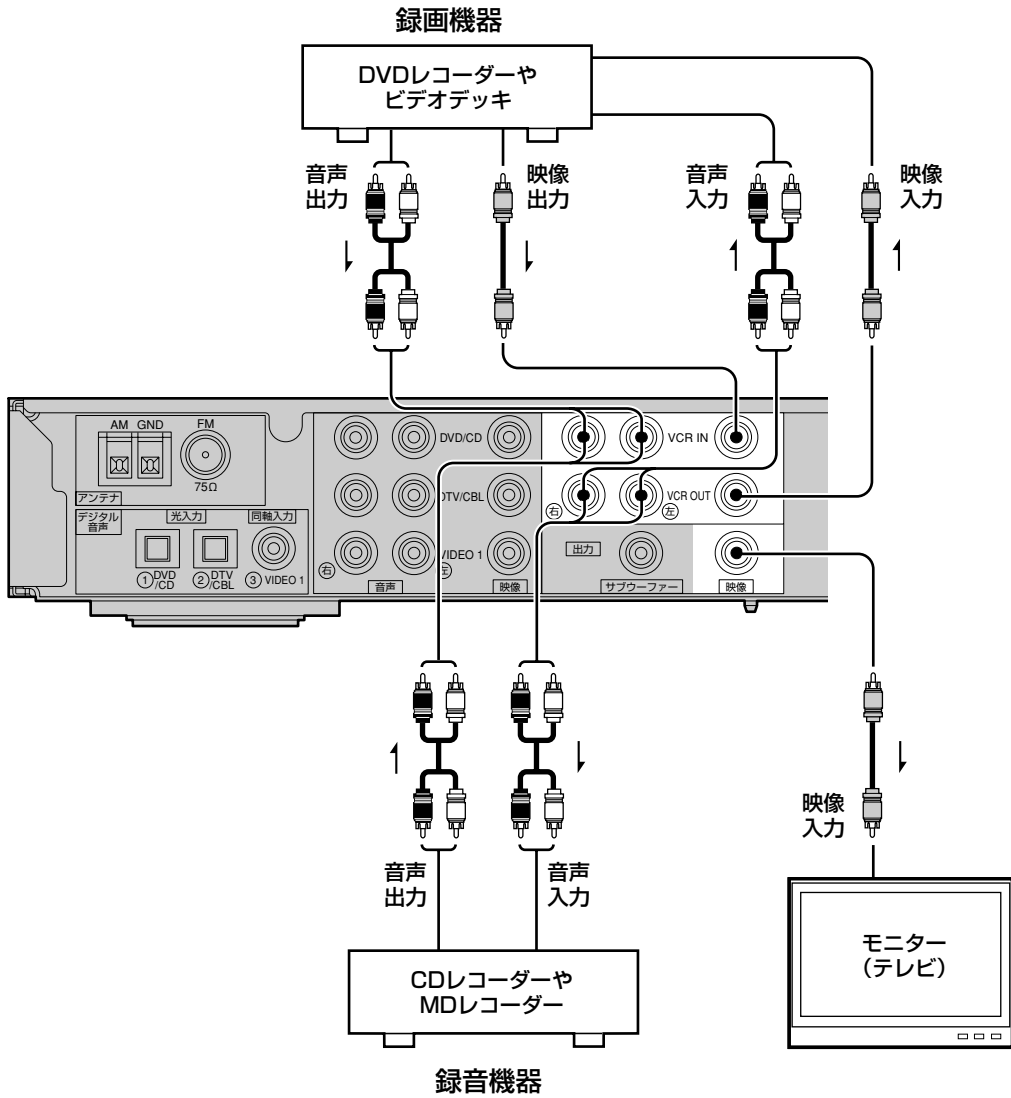
音声
出力

音声
入力

映像
入力

CDレコーダーや
MDレコーダー

録音機器

モニター
（テレビ）

ビデオデッキやDVDレコーダーを接続する

ビデオデッキやDVDレコーダーの音声出力端子をVCR IN音声入力端子に接続します。また、ビデオデッキやDVDレコーダーの映像出力端子をVCR IN映像入力端子に接続します。
録画する場合は、ビデオデッキ／DVDレコーダーの音声入力端子をVCR OUT音声出力端子に接続します。また、ビデオデッキやDVDレコーダーの映像入力端子をVCR OUT映像出力端子に接続します。

MDレコーダーやCDレコーダーを接続する

MD／CDレコーダーの音声出力端子をVCR IN音声入力端子に接続します。
MD／CDレコーダーの音声入力端子をVCR OUT音声出力端子に接続します。

テレビ(モニター)を接続する

テレビ(モニター)の映像入力端子を映像出力端子に接続します。

アドバイス

- 高音質のデジタル音声で楽しみたいときは、DVDレコーダーやCD／MDレコーダーの光デジタル出力または同軸デジタル出力端子を空いている光デジタル入力または同軸デジタル入力端子に接続します。この場合は、INPUTメニューの「Input Assign」で、接続した端子の割り当てを「VCR」に変更してください。(→P.64)

注 意

- カセットデッキを接続する場合もCDレコーダーなどと同様に、音声出力端子と音声入力端子を接続します。
- 本機に録音･録画機器を接続している場合、本機の使用中は録音･録画機器の電源を入れたままにしてください。録音･録画機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。

アンテナを接続する

本機にはAMループアンテナとFM簡易アンテナが付属しています。電波を良好に受信できる地域では付属のアンテナをお使いください。

各アンテナを端子に正しく接続してください。

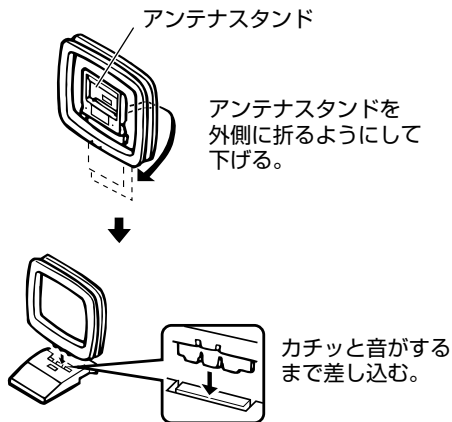
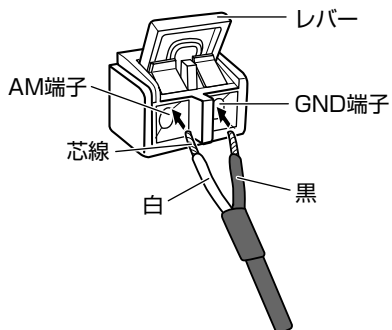
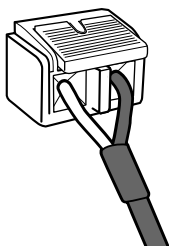
FM簡易アンテナを接続する

アース（GND端子）
GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

付属のFM簡易アンテナをFM端子に接続してください。

FM屋外アンテナを接続するときは

アンテナの同軸ケーブルを市販のF型コネクターを使って、FM端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。

2 AM端子とGND端子のレバーを上に開け、白いコードの芯線をAM端子に、黒いコードの芯線をGND端子に差し込む。

3 レバーを戻して、コードを固定する。

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

4 アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向ける。

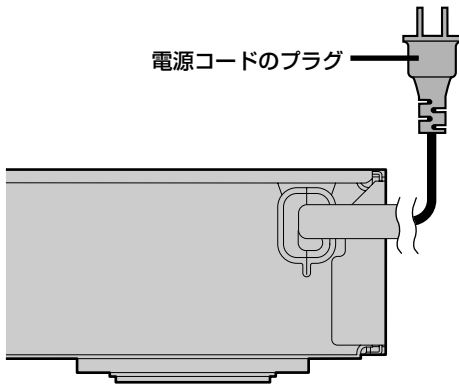
アドバイス

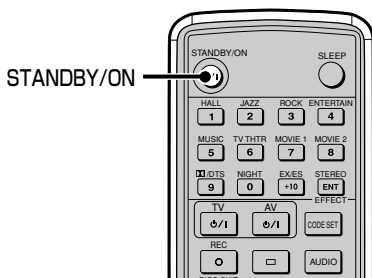
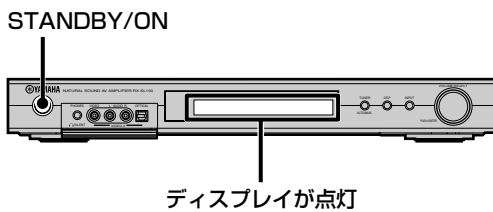
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

注 意

- FM簡易アンテナやAMループアンテナは、本機やスピーカーケーブルから離して設置してください。
- AM屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源コードのプラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源を入れる

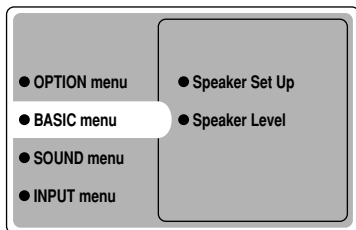
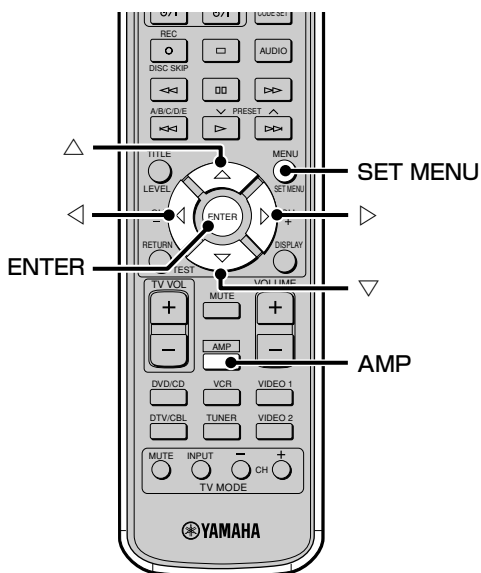
ここまでのすべての準備が終わったら、本機の電源を入れます。

STANDBY/ONキーを押す。
本機の電源が入り、ディスプレイが点灯します。

再生の前に行う設定ーBASIC menu(基本設定)

スピーカーの本数、サブウーファーの有無、お部屋のサイズなど、お使いになる条件を簡単に設定するだけで本機の音場プログラムの効果を最大限に引き出すことができます。ソースを再生する前にセットメニューの中のBASICメニューを使ってリスニング環境を設定してください。

さらにSOUNDメニューを使ってリスニング環境を細かく設定することができます。→P.59「音声出力を設定するーSOUND menu(音声設定)」

テレビ画面に表示されるセットメニューを日本語にすることができます。OPTIONメニューの「GUI Language」の設定を行ってください。初期設定は「English(英語)」です。→P.67「表示言語を設定する－GUI Language(GUI使用言語)」

操作手順

● OPTION menu
● BASIC menu
● SOUND menu
● INPUT menu
● Speaker Set Up
● Speaker Level

リモコンで操作します。
セットメニューはテレビ画面にも表示されます。テレビ画面で確認しながら操作すると、より簡単に設定できます。各メニューの名称はテレビ画面に表示される名称で説明していますので、本機ディスプレイに表示される名称とは若干異なります。

注 意

- 設定するときは、ヘッドホンを抜いてください。

1 **AMPキーを押す。**

2 **SET MENUキーを押す。**

3 **△または▽キーを押して「BASIC menu(基本設定)」を表示させる。**

4 **▷キーを押す。**
BASICメニューの設定モードに入ります。

5 **△または▽キーを押して、設定したい項目を選ぶ。**
設定項目は次の2つです。**「操作の流れ」**(→P.29)にしたがって設定してください。
「Speaker Set Up」
使用するスピーカーや、お部屋のサイズにあわせて、アンプの出力設定を変更します。
「Speaker Level」
接続したスピーカーの音声出力レベルを調節します。

6 **▷キーを押す。**
選んだ項目の設定モードに入ります。

7 **△または▽キーで変更したい設定を選んで、ENTERキーを押す。**
ディスプレイに表示された項目名の後ろにコロン(:)が点灯します。

8 **△または▽キーで設定を変更し、ENTERキーを押します。**
項目名の後ろのコロン(:)が消灯します。
項目によっては◁または▷キーで設定を変更する場合があります。

9 **◁キーを押して項目に戻るか、SET MENUキーを押してセットメニューを終了する。**

操作の流れ

BASIC　SOUND　INPUT　OPTION

BASICメニュー(基本設定)には「Speaker Set Up(スピーカー設定)」と「Speaker Level(スピーカー出力レベル)」の2つの項目があり、下記の流れにしたがって設定するだけで美しいヤマハサウンドをお手軽にお楽しみいただけます。詳しい設定内容については**「部屋の大きさやスピーカーシステムにあわせて出力設定する―Speaker Set Up(スピーカー設定)」(→P.30)**または**「スピーカーの音声出力レベルを調節する―Speaker Level(スピーカー出力レベル)」(→P.31)**をご覧ください。

注 意

- SOUNDメニューの中には、BASICメニューを設定することにより無効になる項目があります。あやまってBASICメニューに入った場合は「Speaker Set Up」の「Setting OK?」でCancelを選ぶか、Setを選んだあとでSOUNDメニューを設定しなおしてください。

Speaker Set Up(スピーカー設定)
お部屋の広さや使用するスピーカーの数などを設定します。

① **Room Size(部屋の大きさ設定)**
Small(小)、Middle(中)、Large(大)から選びます。

② **Subwoofer Set(サブウーファー設定)**
Yes(あり)、None(なし)から選びます。

③ **Speaker Num(スピーカーの本数)**
2、3、4、5、6 speaker(本)から選びます。

④ **Setting OK?(設定確認)**
①～③の設定内容を確認してください。
Set(設定): 設定が有効になります。
Cancel(無効): 設定を無効にして、やりなおします。

Set

CHECK TEST TONE
テストトーンが流れます。お使いのスピーカーの音量がすべて同じか確認してください。確認したらENTERキーを押します。

Check OK?(テスト判定)
すべてのスピーカーの音量が同じならYes、異なっていればNoを選びます。
Yes(はい): Speaker Set Upメニューを終了します。
No(いいえ): Speaker Levelへ移りスピーカーの出力レベルを調節します。

No(いいえ)

Speaker Level(スピーカー出力レベル)
それぞれのスピーカーの出力バランスを調節します。
ENTERキーを押すと、設定モードに入ります。

① **Front L-R(フロント左右)**
フロントLとフロントRのバランスを調整します。

② **Center(センター)**
フロントLとセンターのバランスを調整します。

③ **Sur L(サラウンド左)**
フロントLとサラウンドLのバランスを調整します。

④ **Sur Back(サラウンドバック)**
サラウンドLとサラウンドバックのバランスを調整します。

⑤ **Sur R(サラウンド右)**
サラウンドLとサラウンドRのバランスを調整します。

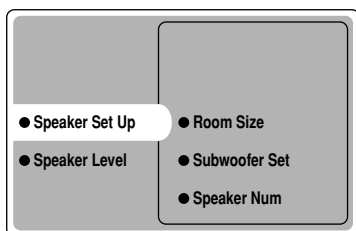
⑥ **Subwoofer(サブウーファー)**
フロントLとサブウーファーのバランスを調整します。

Yes(はい)

設定完了

- BASIC以外のセットメニュー項目については、**「セットメニューで設定を変更する」(→P.57)**を参照してください。

部屋の大きさやスピーカーシステムにあわせて出力設定するーSpeaker Set Up(スピーカー設定)

リスニング環境にあわせて、アンプの出力設定をします。

① 部屋の大きさを選ぶ「Room Size(部屋の大きさ設定)」

選択項目: Small(小)、Middle(中)、Large(大)
初期設定: Middle(中)

本機を使用する部屋の大きさを選びます。大きさの目安は「Small」が3.6m×2.8m(6畳)、「Middle」が4.8m×4m(12畳)、「Large」が6.3m×5m(18畳)です。

② サブウーファーの有無を選ぶ「Subwoofer Set(サブウーファー設定)」

選択項目: Yes(あり)、None(なし)
初期設定: Yes(あり)

サブウーファーを使用するときは「Yes」を、使用しないときは「None」を選びます。

③ スピーカーの本数を選ぶ「Speaker Num(スピーカーの本数)」

選択項目:2、3、4、5、6 speaker(本)
初期設定:6 speaker(本)

使用するスピーカーの本数を選びます。次の表を参考に、適切な本数を選んでください。

選択項目	入力信号チャンネル表示	使用するスピーカー
2 speaker	L R	フロントL、フロントR
3 speaker	L C R	フロントL、センター、フロントR
4 speaker	L R SL SR	フロントL、フロントR、サラウンドL、サラウンドR
5 speaker	L C R SL SR	フロントL、センター、フロントR、サラウンドL、サラウンドR
6 speaker	L C R SL SB SR	フロントL、センター、フロントR、サラウンドL、サラウンドバック、サラウンドR

注 意

- スピーカーの本数は、サブウーファーを除く合計使用本数を選んでください。

④ 設定するか確認する「Setting OK?(設定確認)」

選択項目: Set(設定)、Cancel(無効)

①〜③で選んだ設定を決定するか確認します。
Setを選ぶと設定内容が決定され、表示が「CHECK TEST TONE」に変わり、テストトーンが出力されます。
Cancelを選ぶと、①〜③で選んだ設定をキャンセルし、BASICメニューのはじめの表示に戻ります。

⑤ 各スピーカーからの音量を確認する「CHECK TEST TONE」

④でSetを選ぶと、テストトーンが出力されます。各スピーカーから同じ音量でテストトーンが聞こえるかを確認してENTERキーを押します。

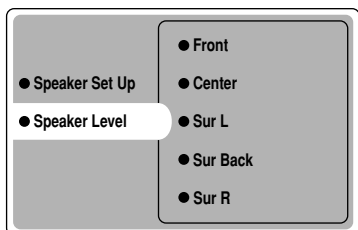
アドバイス

- テストトーンは2回巡回します。
- テストトーンの巡回中は、テストトーンを出力しているスピーカーの入力信号チャンネル表示が点滅します。

⑥ Speaker Set Upメニューを終了する「Check OK?(テスト判定)」

⑤でスピーカーから同じ音量のテストトーンが聞こえたら、Yesを選んでSpeaker Set Upメニューを終了します。音量が異なる場合は、Noを選んでください。自動的に「Speaker Level(スピーカー出力レベル)」の設定へ移り、音量を調節できます。

スピーカーの音声出力レベルを調節するーSpeaker Level(スピーカー出力レベル)

フロントL、サラウンドLスピーカーと各スピーカーから出力されるテストトーンの音量を比較して、同じ音量になるように調節します。

① Front L-R (フロント左右)

フロントLスピーカーとフロントRスピーカーの音量が同じになるように、フロントRスピーカーの音量を調節します。

調節範囲:左寄り20dB〜右寄り20dB
初期設定:0dB

② Center(センター)

フロントLスピーカーとセンタースピーカーの音量が同じになるように、センタースピーカーの音量を調節します。

調節範囲:−10〜+10dB
初期設定:0dB

③ Sur L(サラウンド左)

フロントLスピーカーとサラウンドLスピーカーの音量が同じになるように、サラウンドLスピーカーの音量を調節します。

調節範囲:−10〜+10dB
初期設定:0dB

④ Sur Back(サラウンドバック)

サラウンドLスピーカーとサラウンドバックスピーカーの音量が同じになるように、サラウンドバックスピーカーの音量を調節します。

調節範囲:−10〜+10dB
初期設定:0dB

⑤ Sur R(サラウンド右)

サラウンドLスピーカーとサラウンドRスピーカーの音量が同じになるように、サラウンドRスピーカーの音量を調節します。

調節範囲:−10〜+10dB
初期設定:0dB

⑥ Subwoofer(サブウーファー)

フロントLスピーカーとサブウーファーの音量が同じになるように、サブウーファーの音量を調節します。

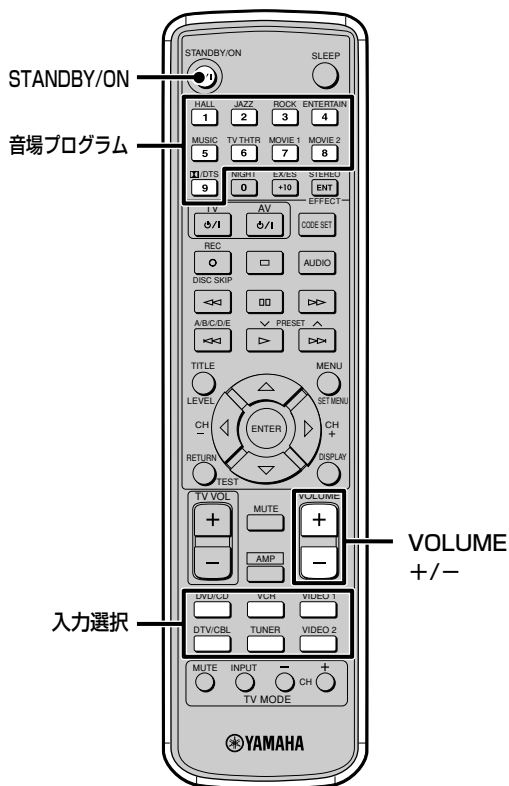
調節範囲:−20〜0dB
初期設定:0dB

アドバイス

- テストトーンはフロントLまたはサラウンドLスピーカーと選んだスピーカーから交互に出力されます。ディスプレイの入力信号チャンネル表示で、テストトーンを出力しているスピーカーがわかります。
- ②〜⑤の項目では、Speaker Set Upメニューの「Speaker Num」で選んだスピーカーだけを調節できます。

再生する

基本操作

本機に接続したオーディオ機器やビデオ機器を再生します。

1 STANDBY/ONキーを押して本機の電源を入れる。

2 DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ(モニター)の電源を入れる。

3 テレビの入力を切り替える。

例えば、本機の映像出力をテレビのビデオ入力1に接続したときはビデオ入力1にします。

4 入力選択キーを押して再生したい音声／映像(入力ソース)を選ぶ。

選んだ音声／映像(入力ソース)の種類が、ディスプレイに数秒間表示されます。

選んだ入力ソース

注 意

- 入力選択キーや表示される入力ソース名は、どの入力端子から入力しているかを示しています。接続した機器名と入力端子名が異なる場合は、入力端子名を選びます。

  例：LDプレーヤーをDTV/CBL端子に接続した場合、LDプレーヤーの音声／映像を楽しむためには、DTV/CBLキーを押して入力ソースを「DTV/CBL」に切り替えます。

アドバイス

- **本体から選ぶには次のように操作します。**

  1 INPUTキーを押す。

  VOLUME/SELECTつまみの機能が入力選択になります。

  2 VOLUME/SELECTつまみを回して、再生したい入力ソースを選ぶ。

  INPUTキーを押してから、5秒以内につまみ回してください。INPUTキーを押して、5秒を過ぎるとVOLUME/SELECTつまみの機能は通常の音量調節に戻ります。

  3 VOLUME/SELECTつまみを押す。

  VOLUME/SELECTつまみの機能が音量調節に戻ります。

機器の再生(またはAM／FM放送の受信)を始める。

DVDを再生する(→P.34)
衛星放送チューナーやCATVチューナーでTVを見る(→P.34)
LDを再生する(→P.35)
ビデオを再生する(→P.35)
ゲームで遊ぶ(→P.36)
AM／FM放送を聴く(→P.38)

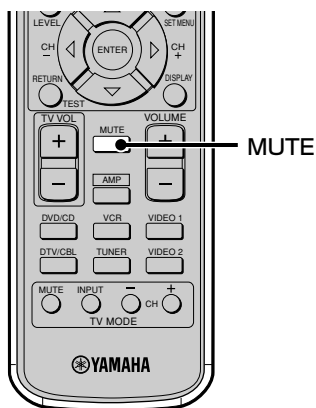
注 意

- コピーガード信号が入ったビデオソースを再生すると画像がブレることがあります。

6 **VOLUME＋/－キーを押して、音量を調節する。**

7 **音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選ぶ。**

音場プログラムの選び方については、**「お好みの音で楽しむ(音場を選ぶ)」(→P.37)**をご覧ください。

一時的に音量を下げる

ソースの再生中にMUTEキーを押す。

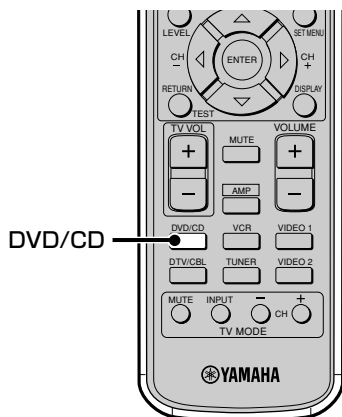
前の音量に戻すには、もう1度MUTEキーを押します。

アドバイス

- OPTIONメニューの「Audio Mute」で下げる音量(－∞、－50、－20)を選べます。→**P.67「ミュート(消音)レベルを設定する－Audio Mute(消音レベル設定)」**
- 本機をスタンバイ状態にすると、MUTEが解除されます。
- VOLUME＋/－キーや音場プログラムキーなどを押してもMUTEは解除されます。
- 音量を下げている間は、ディスプレイのMUTE表示が点滅します。

本機の使用を終了する

STANDBY/ONキーを押して、本機をスタンバイ状態にする。

DVDを再生する

DVD/CDプレーヤーの操作については、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

アドバイス

- 操作手順は**「再生機器を接続する」**(→**P.20**)、**「録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する」**(→**P.23**)の接続例をもとに説明しています。
- 本機に接続したDVDプレーヤーやテレビを、本機のリモコンで操作することもできますが、これらの機器のメーカーコードを前もってリモコンに登録しておくことが必要です。**→P.75「リモコンを使いこなす」**

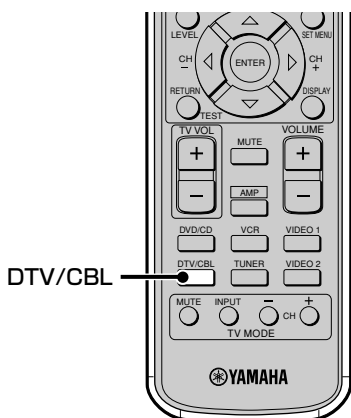
1 **テレビの電源を入れる。**

2 **DVD/CDプレーヤーの電源を入れる。**

3 **テレビの入力を切り替える。**
例えば、本機の映像出力をテレビのビデオ入力1に接続したときは、ビデオ1にします。

4 **DVD/CDキーを押す。**
本機がDVD/CDプレーヤーを入力できるようになります。

5 **DVD/CDプレーヤーを再生する。**

衛星放送チューナーやCATVチューナーでTVを見る

衛星放送／CATVチューナーの操作については、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

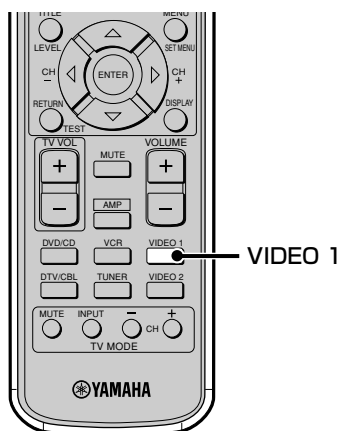
- 操作手順は**「再生機器を接続する」**(→**P.20**)、**「録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する」**(→**P.23**)の接続例をもとに説明しています。
- 本機に接続した衛星放送／CATVチューナーやテレビを、本機のリモコンで操作することもできますが、これらの機器のメーカーコードを前もってリモコンに登録しておくことが必要です。**→P.75「リモコンを使いこなす」**

1 **テレビの電源を入れる。**

2 **衛星放送／CATVチューナーの電源を入れる。**

3 **テレビの入力を切り替える。**
例えば、本機の映像出力をテレビのビデオ入力1に接続したときは、ビデオ1にします。

4 **DTV/CBLキーを押す。**
本機が衛星放送／CATVチューナーを入力できるよになります。

LDを再生する

LDプレーヤーの操作については、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

アドバイス

- 操作手順は「**再生機器を接続する**」(→P.20)、「**録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する**」(→P.23)の接続例をもとに説明しています。

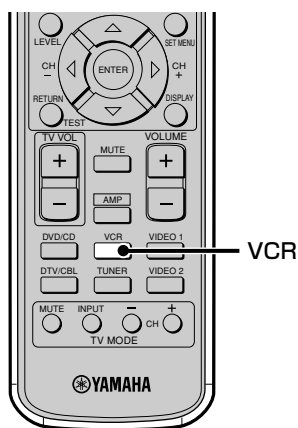
1 **テレビの電源を入れる。**

2 **LDプレーヤーの電源を入れる。**

3 **テレビの入力を切り替える。**
例えば、本機の映像出力をテレビのビデオ入力1に接続したときは、ビデオ1にします。

4 **VIDEO 1キーを押す。**
本機がLDプレーヤーを入力できるようになります。

5 **LDプレーヤーを再生する。**

ビデオを再生する

ビデオデッキの操作については、お使いになるビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

アドバイス

- 操作手順は「**再生機器を接続する**」(→P.20)、「**録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する**」(→P.23)の接続例をもとに説明しています。
- 本機に接続したビデオデッキやテレビを、本機のリモコンで操作することもできますが、これらの機器のメーカーコードを前もってリモコンに登録しておくことが必要です。→P.75「**リモコンを使いこなす**」

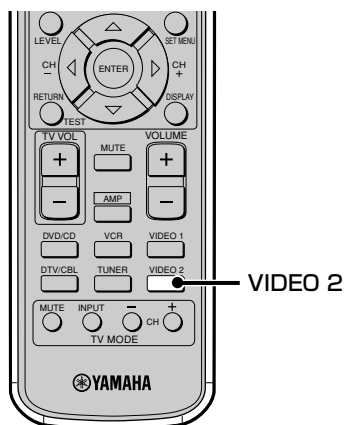
1 **テレビの電源を入れる。**

2 **ビデオデッキの電源を入れる。**

3 **テレビの入力を切り替える。**
例えば、本機の映像出力をテレビのビデオ入力1に接続したときは、ビデオ1にします。

4 **VCRキーを押す。**
本機がビデオデッキを入力できるようになります。

5 **ビデオデッキを再生する。**

TVゲームで遊ぶ

TVゲームの操作については、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

アドバイス

- 操作手順は**「再生機器を接続する」**(→P.20)、**「録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する」**(→P.23)の接続例をもとに説明しています。

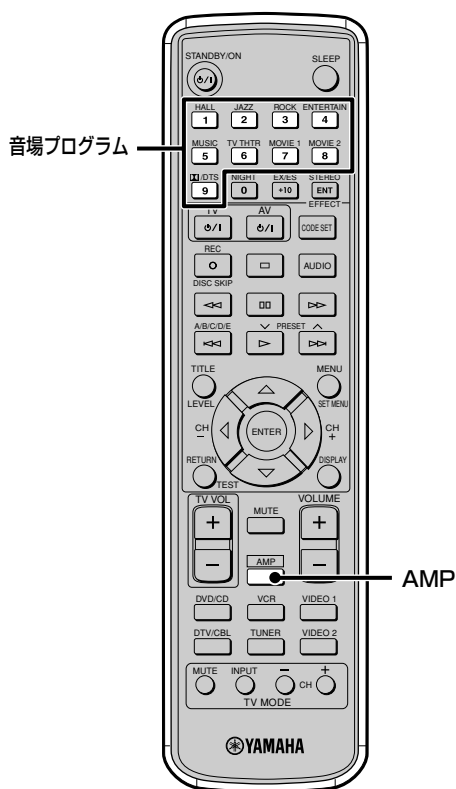
1 テレビの電源を入れる。

2 TVゲーム機の電源を入れる。

3 テレビの入力を切り替える。
例えば、本機をテレビのビデオ入力1に接続したときは、ビデオ1にします。

4 VIDEO 2キーを押す。
本機がTVゲームを入力できるようになります。

5 TVゲーム機を再生する。

お好みの音で楽しむ(音場を選ぶ)

空間が持つ特有の音の響きのことを音場と言います。

本機は、実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラム(音楽系ソース用)に加え、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラム(映像系ソース用)を内蔵しており、再生音に最適な効果を与えることができます。

再生するときにお好みの音場プログラムを選ぶだけで、再生ソースの音声に迫力の臨場感や音場効果が加えられ、映画館やライブ会場さながらの音をお楽しみいただけます。各音場プログラムの特長については、「**音場プログラム一覧**」(→P.43)をご覧ください。

1 AMPキーを押す。

2 音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラム選ぶ。

プログラム名は、ディスプレイに表示されます。

音場プログラム名

3 サブプログラムを選ぶには、音場プログラムキーを繰り返し押す。

音場プログラムキー4と6〜8には複数のサブプログラムがあります。

例:MOVIE 2キーを繰り返し押すと、音場サブプログラム「Adventure」と「General」が交互に表示されます。

アドバイス

- **本体から選ぶには次のように操作します。**
  1. **DSPキーを押して、DSP選択モードを選ぶ。**
     DSPキーを押すたびに、DSP選択モードとSTEREOモードに切り替わります。DSP選択モードでは音場プログラム名が、STEREOモードでは「STEREO」がそれぞれ表示されます。
  2. **VOLUME/SELECTつまみを回して、お好みの音場プログラムを選ぶ。**
     DSPキーを押してから、5秒以内につまみを回してください。
  3. **VOLUME/SELECTつまみを押す。**
     VOLUME/SELECTつまみの機能が音量調節に戻ります。

アドバイス

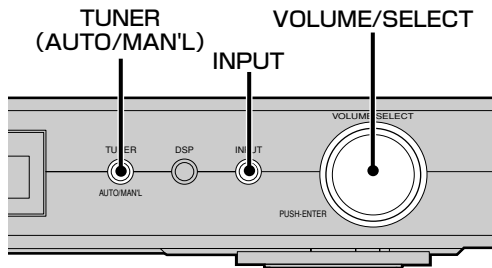
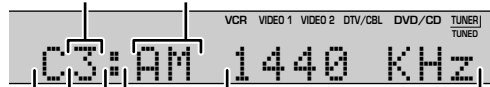
- 音場プログラムはプログラム名にこだわらず、実際に聴いてみてお好みにあわせてお選びください。

注 意

- 一部の音場プログラムでは入力信号の種類に適したデコーダーと音場サブプログラムが自動的に選ばれます。
- 入力ソースを切り替えると、そのソースに対して前回設定した音場プログラムが選ばれます。
- 入力モードがAUTOに設定されているとき、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、選んでいる音場プログラムによっては、入力ソースに対応した音場サブプログラムに自動的に切り替わる場合があります。
- 本機をスタンバイ状態にしたときの入力ソースと音場プログラムは記憶されています。電源を入れると、自動的に前回の状態に戻ります。

FM／AM放送を聴く

放送局を選ぶ

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類があります。電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。電波の弱い放送局は、マニュアル選局してください。

ディスプレイ表示例

※ チューニング（選局）モードのときに消灯し、プリセット（登録／選局）モードのときに点灯します。

1 **INPUTキーを押す。**

2 **VOLUME/SELECTつまみを回して、「TUNER」を選ぶ。**

3 **INPUTキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**

押すたびにFM（チューニングモード）→AM（チューニングモード）→（プリセットモード）→FM（チューニングモード）→...の順に切り替わります。

アドバイス

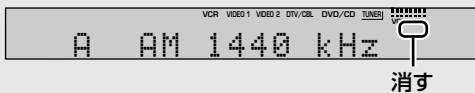
- バンド表示の隣のコロン（：）が消えていれば、チューニングモードです。コロン（：）が消えていることを確認してください。

コロン(:)が消えていること

マニュアル選局

4 **TUNER(AUTO/MAN' L)キーを約1秒押して、ディスプレイのAUTO表示を消す。**

A AM 1440 kHz

消す

5 **VOLUME/SELECTつまみを回して、受信したい放送局を選ぶ。**

高い周波数の放送局を探すときは右に、低い周波数の放送局を探すときは左に回します。

放送局を受信すると、ディスプレイにTUNED表示が点灯し、周波数が表示されます。

オート選局

4 **TUNER(AUTO/MAN' L)キーを約1秒押して、ディスプレイにAUTO表示を点灯させる。**

A AM 1530 kHz

点灯

5 **VOLUME/SELECTつまみを回して、受信したい放送局を選ぶ。**

高い周波数の放送局を探すときは右に、低い周波数の放送局を探すときは左に回します。左右どちらかにつまみを回すと、自動的にチューニングを開始します。

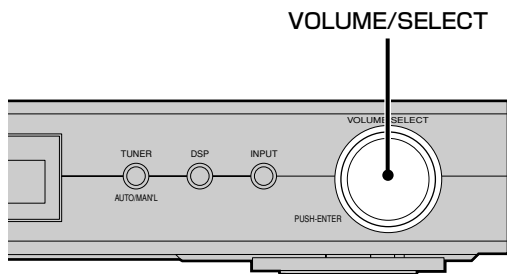
放送局を受信すると、ディスプレイにTUNED表示が点灯し、周波数が表示されます。

アドバイス

- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時は、手動で選局してください（マニュアル選局）。
- マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音を軽減できます。

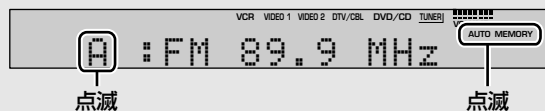
放送局を登録する(プリセット)

FM放送局を自動登録する(オートプリセット)

FM放送局を自動的に40局(8局×5グループ)まで登録(プリセット)できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができて便利です。

VOLUME/SELECT

1 「放送局を選ぶ」(→P.38)の手順 1 ～ 3 を行い、FMチューニングモードを選ぶ。

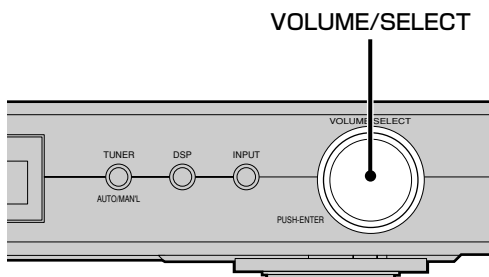
2 VOLUME/SELECTつまみを約7～8秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORY表示、AUTO表示が点滅し、表示されている周波数からオートプリセットが開始されます。

プリセット番号(A1～E8)に放送局が登録されます。

注 意

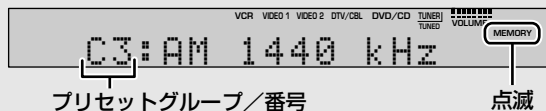
- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは、手動で登録してください(次ページ)。

手動で登録する(マニュアルプリセット)

放送局40局までを手動で登録することもできます。

1 プリセットしたい放送局を選局する。
詳しくは「**放送局を選ぶ**」(→P.38)をご覧ください。

2 VOLUME/SELECTつまみを約3~4秒押す。
放送局が登録できる状態になります。ディスプレイのMEMORY表示が約5秒間点滅します。

注 意
- VOLUME/SELECTつまみは6秒以上押さないでください。FMを選んでいるときは、オートプリセットが開始されてしまいます。

3 MEMORY表示が点滅している間にVOLUME/SELECTつまみを回して、プリセットグループとプリセット番号(A1~E8)を選ぶ。

プリセットグループ/番号　点滅

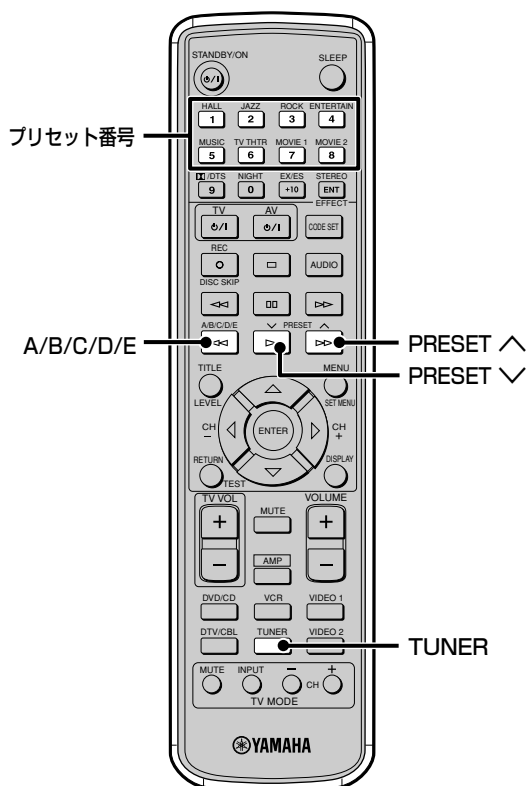
4 VOLUME/SELECTつまみを押す。
選んだプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(「FM」または「AM」)、周波数が登録されます。

C3に登録された局を示しています。

5 他の放送局を続けて登録するときは、手順 1 ~ 4 を繰り返す。

注 意
- AM放送局は自動登録ができません。手動で登録してください。
- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード(ステレオ/モノラル)も同時に登録されます。

登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。

1 TUNERキーを押す。

2 A/B/C/D/Eキーを繰り返し押して、放送局をプリセットしたグループを表示させる。

プリセットグループA、B、C、DまたはEがディスプレイに表示されます。

3 PRESET∧または∨キーを押して、プリセット番号を選ぶ。

プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド（「FM」または「AM」）と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNED表示が点灯します。

C3:AM 1440 kHz

点灯

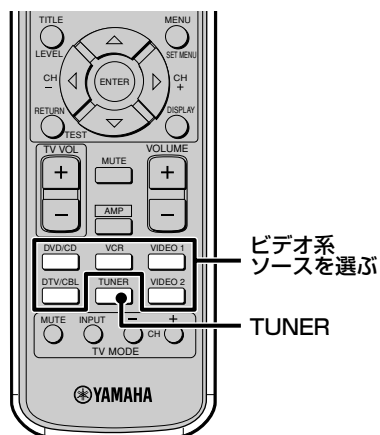
プリセット番号キーを押しても選べます。

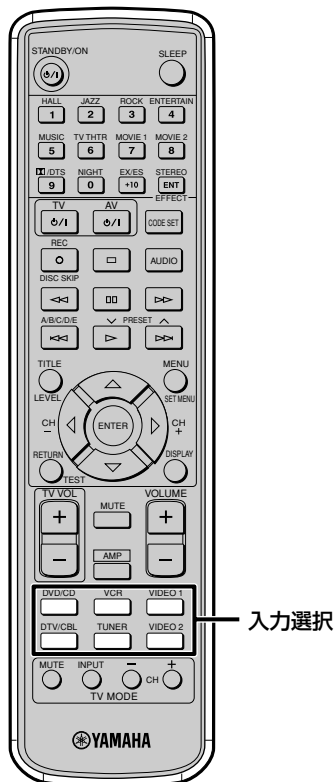
アドバイス

- 本体から選局するには次のように操作します。
  1 「放送局を選ぶ」（→P.38）の手順 ① ～ ② を行う。
  2 INPUTキーを押して、プリセットモードを選ぶ。
  バンド表示の隣にコロン（:）が点灯していることを確認してください。
  3 TUNERキーを押す。
  VOLUME/SELECTつまみの機能が選局モードになります。
  4 VOLUME/SELECTつまみを回して、登録してある放送局を選ぶ。

映像をバックにFM／AM放送を聴く（バックグラウンドビデオ機能）

バックグランドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、FM／AMラジオの音声を組みあわせて楽しむ機能です（例えば、ビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます）。

ビデオ系ソースを選んだ後、リモコンのTUNERキーを押す。

外部機器で録音・録画する

録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

1 本機と本機に接続しているすべての機器の電源を入れる。

録音・録画機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。

2 入力選択キーを押して、録音・録画したい入力ソースを選ぶ。

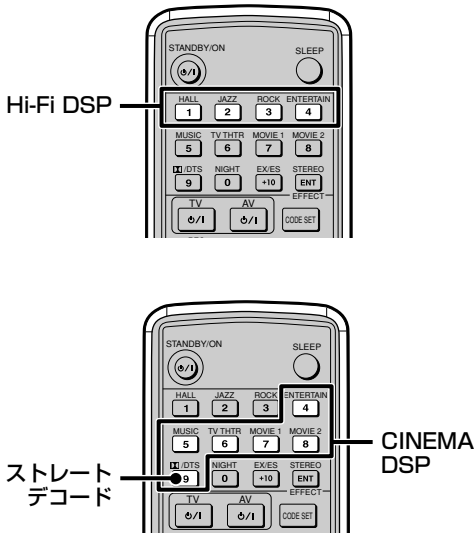
3 ソースを再生する。

AM／FM放送の番組を録音したいときは、放送局を選局します。

4 録音・録画を開始する。

注 意

- 録音・録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音・録画することはできません。
- 録音中に音量や音質を調整したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- デジタル音声端子から入力した信号を録音することはできません。再生機器をアナログ音声端子に接続し、録音してください。
- VCR IN端子から入力した信号はVCR OUT端子から出力されません。
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- コピーガードのかかった映像系ソースを再生すると、コピーガード信号により映像に乱れが生じます。

音場プログラム一覧

本機搭載の音場プログラム

Hi-Fi DSP音場プログラム

音楽系ソースに最適な音場効果を加えて再生します。CDなどの2チャンネルソースに適しています。→**P.43「Hi-Fi DSP(音楽のための音場プログラム)」**

CINEMA DSP音場プログラム

映像系ソースに最適な音場効果を加えて再生します。DVDなどの多チャンネルソースはもとより、ビデオテープなどの2チャンネルソースでも音場効果を楽しめるプログラムが用意されています。→**P.44「CINEMA DSP(映画やビデオのための音場プログラム)」**

ストレートデコード音場プログラム

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS、AACなどのソースに音場効果を加えず、そのまま再生します。(サブプログラムの「Enhanced」を除く)→**P.45「ストレートデコード(DSP音場効果なしで聴く)」**

Hi-Fi DSP(音楽のための音場プログラム)

音場プログラムキー HALL 1 ～ ENTERTAIN 4 (Disco 6ch Stereo)には音楽向けのHi-Fi DSP音場プログラムが用意されています。

Hi-Fi DSP音場プログラム

ソースのタイプ	音場プログラムキー	プログラム	サブプログラム	特長
CDなどの音楽系ソース	HALL 1	CONCERT HALL	ー	円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。
	JAZZ 2	JAZZ CLUB	ー	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
	ROCK 3	ROCK CONCERT	ー	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。左後方に強い反射音がありますので、左後方が大きめに聞こえます。
	ENTERTAIN 4	ENTERTAINMENT	Disco	ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
			6ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長のホームパーティーを演出する音場プログラムです。

CINEMA DSP(映画やビデオのための音場プログラム)

音場プログラムキー ENTERTAIN 4 (Game)〜 TV THTR 6 にはビデオテープなどの2チャンネルソースに最適な音場プログラムが用意されています。
音場プログラムキー MOVIE 1 7 〜 DD/DTS 9 (Enhanced)にはDVDなどの多チャンネルソースに最適な音場プログラムが用意されています。

CINEMA DSP音場プログラム

ソースのタイプ	音場プログラムキー	プログラム	サブプログラム	特長
ビデオテープなどの2チャンネルソース	ENTERTAIN 4	ENTERTAINMENT	Game	ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与えるプログラムです。音源がモノラルでもステレオでも有効で、迫力のあるTVゲームが楽しめます。
	MUSIC 5	MUSIC VIDEO	ー	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。EX/ESデコーダー動作時は、サラウンドバック音源とサラウンドバック音場が加わります。
	TV THTR 6	TV THEATER	Mono Movie	往年のモノラル映画の雰囲気を臨場感たっぷりに再現するモノラルソース用のプログラムです。オペラハウス系の音場をベースに、適度な音場処理を加えています。
			Variety/Sports	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現します。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。EX/ESデコーダー動作時は、サラウンドバック音源とサラウンドバック音場が加わります。
DVDなどの多チャンネルソース	MOVIE 1 7	MOVIE THEATER 1	Spectacle	映画のワンシーンに飛び込んだような、超ワイドな空間がイメージできる音場です。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に最適です。
			Sci-Fi	セリフと音楽、効果音をクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ音場を演出します。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に特に適しています。
	MOVIE 2 8	MOVIE THEATER 2	Adventure	セリフの定位や映像に対する立体的な音場表現力に優れたモードです。アクション映画などにおける最新のサウンドデザインを忠実に再現します。
			General	響きを抑えた明瞭なセリフ、画面の周囲と奥に広がる立体的な音場と柔らかな響きが特長です。ラブストーリーやコメディーなど、人の心の動きを描写する作品に適しています。
	DD/DTS 9	DOLBY DIGITAL	Enhanced	ドルビーデジタル、DTS、AACのサラウンド信号にDSPの音場効果を与えます。
		DTS	Enhanced	
		AAC	Enhanced	
		PRO LOGIC	Enhanced	

ストレートデコード（DSP音場効果なしで聴く）

音場プログラムキー ⅅ/DTS 9（サブプログラムの「Enhanced」は除く）を押してストレートデコードにすると、DSP音場効果をかけずに再生します。

ドルビーデジタルやドルビープロロジック、DTS、AACで処理された音を忠実に再生します。再生ソースの入力信号に応じて最適なデコーダーが働きます。

ストレートデコード音場プログラム

ソースのタイプ	音場プログラムキー	プログラム	サブプログラム	特長
ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS、AAC	ⅅ/DTS 9	DOLBY（ドルビー） DIGITAL（デジタル）	–	ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用です。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
		DTS（ディーティーエス）	–	
		AAC（エーエーシー）	–	
		PRO（プロ） LOGIC（ロジック）	–	
		PRO（プロ） LOGIC（ロジック） II	Movie（ムービー）	2チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
			Music（ミュージック）	
			Game（ゲーム）	
		PRO（プロ） LOGIC（ロジック） IIx	Movie（ムービー）	
			Music（ミュージック）	
			Game（ゲーム）	
		DTS（ディーティーエス） Neo（ネオ）:6	Cinema（シネマ）	
			Music（ミュージック）	

入力信号別音場プログラム名一覧

音場プログラムキー MOVIE 1 [7] ～ DD/DTS [9] を選ぶと、本機に入力されている信号に最適なデコーダーが自動的に選ばれ、サブプログラム名が変わります。

音場プログラムキー	プログラム	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2ch)、DTS(2ch)、AAC(2ch)入力のときのサブプログラム	ドルビーデジタル入力のときのサブプログラム	DTS入力のときのサブプログラム	AAC入力のときのサブプログラム
MOVIE 1 [7]	MOVIE THEATER 1	Spectacle	Spectacle Spectacle EX*1	Spectacle Spectacle ES*2	Spectacle Spectacle EX*1
		Sci-Fi	Sci-Fi Sci-Fi EX*1	Sci-Fi Sci-Fi ES*2	Sci-Fi Sci-Fi EX*1
MOVIE 2 [8]	MOVIE THEATER 2	Adventure	Adventure Adventure EX*1	Adventure Adventure ES*2	Adventure Adventure EX*1
		General	General General EX*1	General General ES*2	General General EX*1
DD/DTS [9]	DOLBY DIGITAL／DTS／AAC／PRO LOGIC	PRO LOGIC PRO LOGIC II Movie PRO LOGIC II Music PRO LOGIC II Game PRO LOGIC IIx Movie PRO LOGIC IIx Music PRO LOGIC IIx Game DTS Neo:6 Cinema DTS Neo:6 Music	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL EX*1 Dolby Digital+PL IIx Music*5	DTS DTS ES Mtrx 6.1*4 DTS ES Dscrt 6.1*3	AAC AAC＋DOLBY EX*1
		PRO LOGIC Enhanced	DOLBY DIGITAL Enhanced DOLBY EX Enhanced*1 Dolby Digital+PL IIx Music Enhanced*5	DTS Enhanced DTS ES Mtrx 6.1*4 Enhanced DTS ES Dscrt 6.1*3 Enhanced	AAC Enhanced AAC＋DOLBY EX Enhanced*1

リモコンのEX/ESキーでデコーダーを選ぶと5.1チャンネルのソースを6.1チャンネルで再生できます。この場合もサブプログラム名にデコーダー名が付きます。EX/ESキーについては**「6.1チャンネルの音場を楽しむ(EX/ESキー)」(→P.50)**をご覧ください。

*1 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時(DD EX点灯時)
*2 DTS-ESディスクリートまたはマトリクスデコーダー動作時(ES DISCRETEまたはES MATRIX表示点灯時)
*3 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時(ES DISCRETE表示点灯時)
*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時(ES MATRIX表示点灯時)
*5 ドルビープロロジックIIxデコーダー(Musicモード)動作時(DD PLII点灯時)

注 意

- AACの2チャンネルステレオ信号は、PRO LOGICIIxとDTS Neo:6デコーダーでは再生できません。
- DTSの2チャンネルステレオ信号は、PRO LOGICIIxデコーダーでは再生できません。

サラウンド音場

MOVIE THEATER

マトリクス処理を行わない70mmフィルムの6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がりを、ダビングステージ(映画の音声を編集するための編集スタジオ)のクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER 70mmプログラムです。最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)やAACのサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーおよびAACデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタル、DTSやAACサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

[ドルビーデジタル、DTS、AAC]＋[DSP音場効果]

ドルビーデジタルやDTS、AACのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

[ドルビーデジタルEX、DTS-ES、AAC ドルビーEX]＋[DSP音場効果]

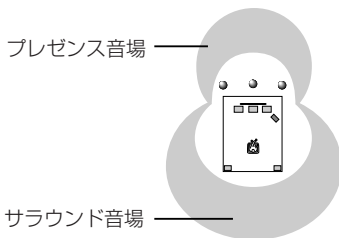
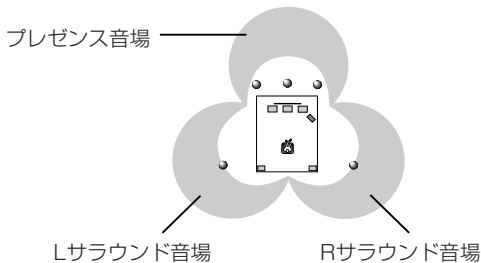
サラウンドバックスピーカーから再現されたサラウンドバック音場が加わり、より雄大な音場空間を再現します。

[ドルビープロロジック]＋[DSP音場効果]

通常、ビデオテープなどの市販の映画ソフトは、ドルビーサラウンドのマトリクス技術によって4チャンネル(L／C／R／S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード･デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

ドルビープロロジックII／ドルビープロロジックIIx／DTS Neo:6

ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIxやDTS Neo:6デコーダーは2チャンネルを5または6チャンネルにデコードします。映画用のMovie／Cinema、2チャンネルオーディオソース用のMusic、ゲーム用のGameの3種類のモードがあります。

入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1／6.1チャンネル音声（DD EX または ES DISCRETE／MATRIX 表示消灯時）	5.1／6.1チャンネル音声（DD EX または ES DISCRETE／MATRIX 表示点灯時）
① CONCERT HALL ② JAZZ CLUB ③ ROCK CONCERT ④ ENTERTAINMENT Disco	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR
④ ENTERTAINMENT 6ch Stereo	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR	
④ ENTERTAINMENT Game ⑤ MUSIC VIDEO ⑥ TV THEATER ⑦ MOVIE THEATER 1 ⑧ MOVIE THEATER 2	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR
⑨ DOLBY DIGITAL／DTS／AAC／DOLBY PRO LOGIC	L C R / SL SB SR（PRO LOGIC）	L C R / SL SB SR（PRO LOGIC）	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR
⑨ DOLBY PRO LOGIC II	L C R / SL SB SR（Movie/Game） L C R / SL SB SR（Music）	L C R / SL SB SR	—	—
⑨ DOLBY PRO LOGIC IIx	L C R / SL SB SR（Movie/Game） L C R / SL SB SR（Music）	L C R / SL SB SR	L C R / SL SB SR	—
⑨ DTS Neo:6	L C R / SL SB SR（Cinema） L C R / SL SB SR（Music）	L C R / SL SB SR	—	—

表の見かた

表中のイラストは、6つのスピーカーを示します。

L：フロントLスピーカー
R：フロントRスピーカー
C：センタースピーカー
SL：サラウンドLスピーカー
SB：サラウンドバックスピーカー
R：サラウンドRスピーカー

音が出るスピーカーと出ないスピーカーを次のように示します。

■ 音が出ているスピーカー
□ 音の出ていないスピーカー

注意

- 再生するソースに含まれている信号成分によっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合せて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

そのほかの再生のしかた

スピーカーの数にあわせた音場やステレオ再生を楽しんだり、夜などの静かな時間でも迫力のある音場プログラムで楽しんだり、本機のいろいろな機能をお楽しみください。

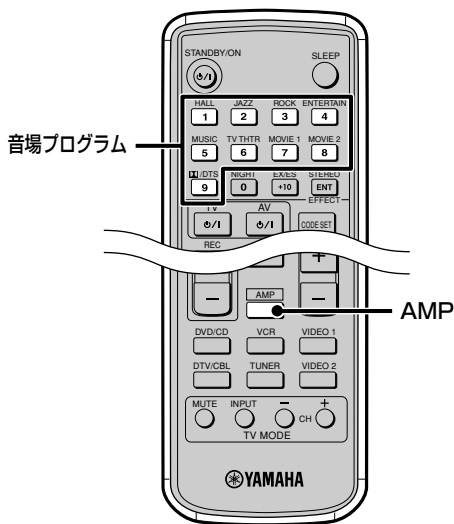
スピーカーの数にあわせた音場を楽しんだり、ステレオ再生を楽しみたい

- サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP) → P.49
- 6.1チャンネルの音場を楽しむ(EX/ESキー)→ P.50
- 2チャンネルソースを多チャンネルで楽しむ(PRO LOGIC、PRO LOGIC II/IIx、DTS Neo:6)→ P.52
- CDなどのステレオ再生(2チャンネル)を楽しむ → P.53

夜などの静かな時間でも音場プログラムを楽しみたい

- ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシアター) → P.54
- 小さな音量でも音場プログラムを楽しむ(ナイトリスニングモード) → P.55
- 一定時間後に自動的に電源を切る(スリープタイマー) → P.56

サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP)

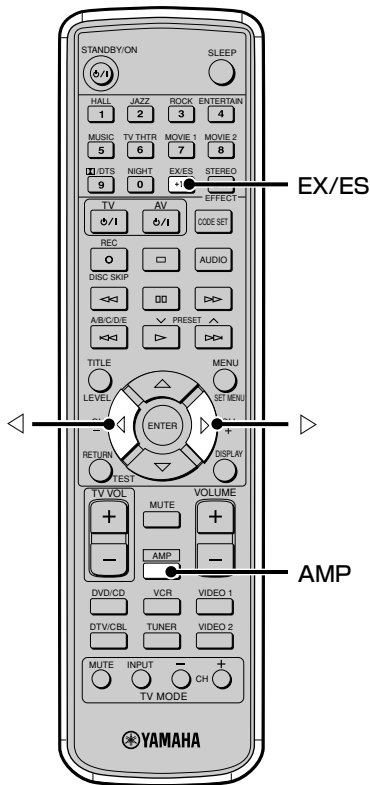
入力ソースの音声はバーチャルシネマDSPで音場処理され、選んだ音場プログラムでフロントL／Rスピーカー、センタースピーカーおよびサブウーファーから音声が再生されます。

1. **ソースを再生する。**
2. **AMPキーを押す。**
3. **音場プログラムを選ぶ。**
4. **SOUNDメニューの「Speaker Set」で「Surround L/R」をNoneに設定する。****→P.59「音声出力を設定する−SOUND menu(音声設定)」**

アドバイス

- バーチャルシネマDSPにすると、VIRTUAL表示が点灯します。

注 意

- 以下の場合は、SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Surround L/R」がNoneに設定されていても、バーチャルシネマDSPにはなりません。
  - 6ch StereoやPRO LOGIC、DOLBY DIGITAL、DTS、AAC、PRO LOGIC II、PRO LOGIC IIx、Neo:6音場プログラムを選んでいる。
  - ステレオ音声(「STEREO」がディスプレイに表示されている)で再生している。
  - サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されている。
  - ヘッドホンを接続している。

6.1チャンネルの音場を楽しむ(EX/ESキー)

真正面から真後ろに音が抜けていく移動表現を、サラウンドバックチャンネルの音によってリアルに感じられるのが6.1チャンネル音声の大きな特長です。

本機にドルビーデジタルサラウンドEXやDTS-ES、またはAACの6.1チャンネル音声を入力すると、最適なデコーダーと音場プログラムが自動的に選ばれるので、なにも操作しなくても6.1チャンネル音声をお楽しみいただけます。

さらに5.1チャンネルのソースでも、EX/ESキーでPL IIx MusicまたはEX/ESデコーダーを選ぶとサラウンドL／Rチャンネルからサラウンドバックチャンネルの音声が作り出され、6.1チャンネル音声でお楽しみいただけます。

AMPキーを押す。

EX/ESキーを押して、AUTOまたはデコーダーを選ぶ。

EX/ESキーを押すたびに、以下のように切り替わります。

AUTO→デコーダー*(PL IIx Music、EX/ES)→OFF→AUTO→...

* 「デコーダー」という文字は、本機ディスプレイに実際には表示されません。

AUTO(オート): ドルビーデジタル、DTS、AACにかかわらず、6.1チャンネルのソースを再生するときに選びます。
再生ソースの入力信号によって、最適なデコーダーが自動的に働き、サラウンドバックスピーカーからサラウンドバックチャンネルの音声が出ます。

デコーダー: 5.1チャンネルソースを6.1チャンネルソースで楽しむときに選びます。
手順 3 でPL IIx MusicまたはEX/ESデコーダーからお好みのデコーダーを指定してください。

OFF(オフ): ドルビーデジタル対応EXやDTS-ESデコーダーは働きません。音声は5.1チャンネルで再生され、サラウンドバックスピーカーからは音が出ません。

3 手順 ② でデコーダーを選んだときは、◁ または ▷ キーを押してお好みのデコーダーモードを選ぶ。

PL IIx Music: 5.1チャンネルのドルビーデジタルをプロロジックIIxデコーダーで再生するときに選びます。サラウンドバックチャンネルの音声が加わり、6.1チャンネルで再生されます。

EX/ES: 5.1チャンネルのドルビーデジタルまたはAACソースをドルビーデジタル対応EXデコーダーで再生するとき、または5.1チャンネルのDTSソースをDTS-ESデコーダーで再生するときに選びます。サラウンドバックスピーカーからサラウンドバックチャンネルの音声が出ます。

注 意

- 再生するソフトの方式によっては、選べないデコーダーがあります。またソフトの方式にかかわらず、PL IIx MovieとPL IIx Gameは選べません。

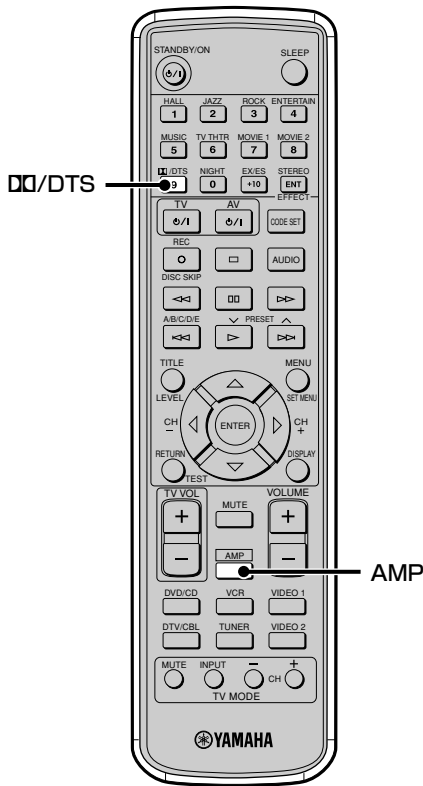
アドバイス

- DTS-ESデコーダー(ディスクリート)で再生しているときは、ディスプレイのES DISCRETE表示が点灯します。
- ドルビーデジタル対応EXデコーダー(マトリクス)で再生しているときは、ディスプレイのES MATRIX表示(入力ソースがDTSのとき)または DD EX (入力ソースがドルビーデジタルまたはAACのとき)が点灯します。
- DD/DTSキーで「PRO LOGIC IIx」または「DTS Neo:6」を選ぶと、2チャンネルソースを6.1チャンネルで再生できます。→P.52「2チャンネルソースを多チャンネルで楽しむ(PRO LOGIC、PRO LOGIC II/IIx、DTS Neo:6)」

注 意

- 6.1チャンネルソースでも、本機が自動的に認識できる信号(フラグ)が含まれていない、またはフラグが記録されていないものがあります。「AUTO」の設定でこのようなソースを再生すると「AUTO:- - -」と表示され、6.1チャンネルで再生されません。6.1チャンネルで再生するには、EX/ESキーを押して「デコーダー」を選び、◁また▷キーを押してお好みのデコーダーを選んでください。
- 以下の場合は、EX/ESキーを押しても、6.1チャンネルで再生されません。
  - SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Surround L/R」がNoneに設定されている。
  - ステレオ音声(「STEREO」がディスプレイに表示されている)で再生している。
  - 音場プログラム「6ch Stereo」を選んでいる。
  - ヘッドホンを接続している。
- 本機をスタンバイ状態にすると、モードは「AUTO」にリセットされます。

2チャンネルソースを多チャンネルで楽しむ(PRO LOGIC、PRO LOGIC II/IIx、DTS Neo:6)

DD/DTSキーでPRO LOGIC、PRO LOGIC II、PRO LOGIC IIxまたはDTS Neo:6を選ぶと、2チャンネルソースを多チャンネル化してお楽しみいただけます。

1 **2チャンネルソースを再生する。**

2 **AMPキーを押す。**

3 **DD/DTSキーを繰り返し押して、デコーダーおよびサブプログラムを選ぶ。**

DD/DTSキーを押すたびに、以下のように切り替わります。

PRO LOGIC→PRO LOGIC ENHANCED→PRO LOGIC II/IIx* Movie→PRO LOGIC II/IIx* Music→PRO LOGIC II/IIx* Game→DTS Neo:6 Cinema→DTS Neo:6 Music→PRO LOGIC→...

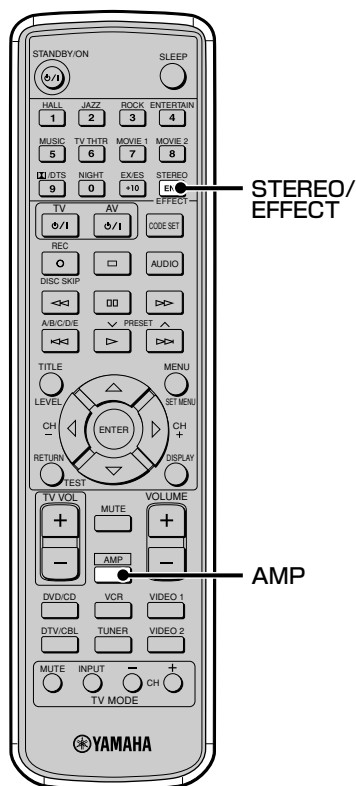
* 「PL II／PL IIx」パラメーター(→P.69)の設定により、PRO LOGIC IIまたはPRO LOGIC IIxのどちらかが表示されます。

再生するソースにあわせて選んでください。
映画用：PRO LOGIC II／IIx Movie、Neo:6 Cinema
音楽用：PRO LOGIC II／IIx Music、Neo:6 Music

注 意

- 2チャンネル音声以外の信号は、PRO LOGIC、PRO LOGIC IIとDTS Neo:6デコーダーでは再生できません。
- AACの2チャンネルステレオ信号はPRO LOGIC IIx とDTS Neo:6デコーダーでは再生できません。
- 以下の場合、「PL II／PL IIx」パラメーターをPRO LOGIC IIxに設定していてもPRO LOGIC IIが選ばれます。
  - BASICメニューの「Speaker Set Up」の「Speaker Num」で6 speaker以外を選んでいる。
  - SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Surround Back」がNoneに設定されている。
  - ヘッドホンを接続している。
- モノラルソースをPRO LOGIC、PRO LOGIC Enhanced、PRO LOGIC II／IIx Movie、PRO LOGIC II／IIx GameやNeo:6 Cinema音場で再生すると、センタースピーカーからのみ音が出ます。フロントスピーカーやサラウンドスピーカーからは音は出ません。ただし、SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Center」がNoneに設定されているときは、センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

ステレオ音声(2チャンネル)で再生する

CDなどの2チャンネルソースをオリジナルのまま再生できます。

1 ソースを再生する。

2 AMPキーを押す。

3 STEREO/EFFECTキーを押して、「STEREO」を表示させる。

音場効果がオフになり、フロントL/Rスピーカーだけを使って再生します。STEREO/EFFECTキーをもう1度押すと、音場効果がオンになります。

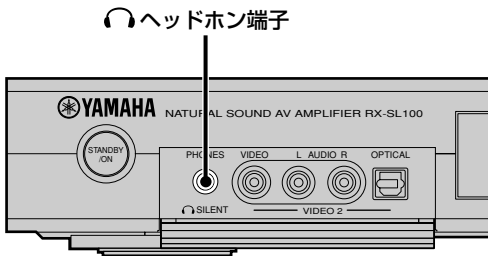
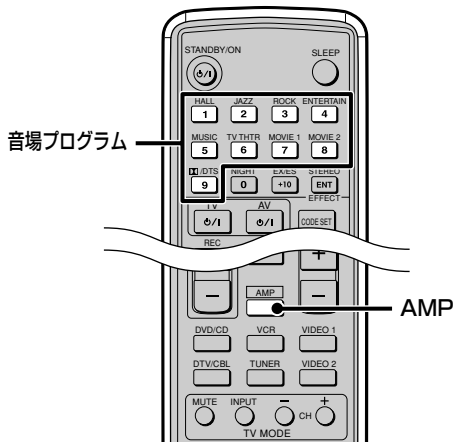
アドバイス

- 本体のDSPキーを押してもステレオ音声で再生することができます。DSPキーを押してディスプレイに「STEREO」を表示させてください。

注 意

- 音場効果がオフの状態のときにドルビーデジタルやDTS、AAC音声を再生すると、LFEを除くすべてのチャンネルの音声がフロントL/Rチャンネルにミックスされて出力されます。この場合、フロントL/Rチャンネルの音量バランスが乱れることがあります。
- 音場効果をオフにすると、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックスピーカーから音は出ません。
- 音場効果をオフにしたり、SOUNDメニューの「Dynamic Range」をMINに設定すると、音量が極端に下がることがあります。このような場合は音場効果をオンにしてください。
- SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Front」をSmallかつ「LFE/Bass Out」をSWFRまたはBothに設定している場合は、サブウーファーから低音域が出力されます。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(「サイレントシアター」)

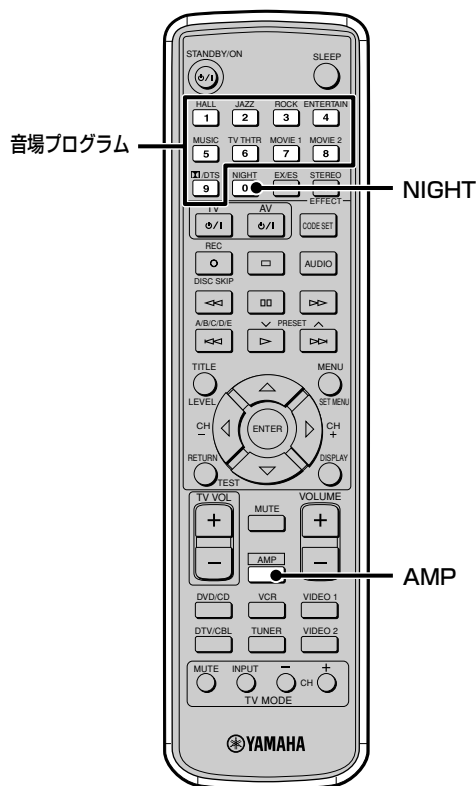
ヘッドホンを本機の ヘッドホン端子に接続すると、マルチスピーカーによる音場プログラムをヘッドホンで擬似的に再現する「サイレントシアター」で音声を楽しめます。

1. **ヘッドホンを本機の ヘッドホン端子に接続する。**
   ディスプレイに 表示が点灯します。
2. **ソースを再生する。**
3. **AMPキーを押す。**
4. **音場プログラムを選ぶ。**
   ディスプレイに「SILENT THEATER」表示が点灯します。

アドバイス

- 音場効果がオフのときは通常のステレオ再生になります。
- LFEチャンネル音声は他のチャンネル音声とミックスされます。
- ヘッドホンを接続すると、音場効果のオン/オフにかかわらずどのスピーカーからも音は出ません。

注 意

- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されているときは、「サイレントシアター」になりません。

小さな音量でも音場プログラムを楽しむ(ナイトリスニングモード)

大きな効果音を抑え、セリフなどははっきりと聞こえるように再生できます。夜間など小音量で再生するときも音場プログラムを楽しめます。

1 ソースを再生する。

2 AMPキーを押す。

3 音場プログラムを選ぶ。

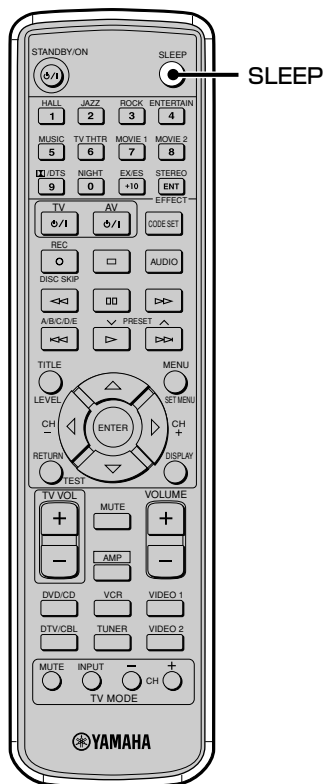
4 NIGHTキーを押す。
ディスプレイにNIGHT表示が点灯します。

通常の再生に戻すには:NIGHTキーをもう1度押して、ディスプレイのNIGHT表示を消します。

アドバイス

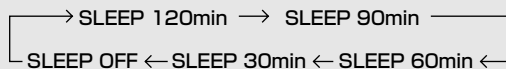
- すべての音場プログラムをナイトリスニングモードで楽しめます。

一定時間後に自動的に電源を切る（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、本機が自動的にスタンバイ状態になるように設定できます。お気に入りのソースを楽しみながらおやすみになりたいときに便利です。

 ソースを再生する。

 SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ。

ディスプレイ表示が次のように切り替わります。選んでいる間はSLEEP表示が点滅します。
（min=分）

点滅

お好みの時間が表示されたら押すのをやめます。SLEEP表示が点灯に変わり音場プログラム表示に切り替わるとスリープタイマーの時間設定が完了します。

点灯

スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」が表示されるまで、SLEEPキーを繰り返し押す。

しばらくすると「SLEEP OFF」は消え、SLEEP表示も消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

アドバイス

- 本機に接続した機器の電源を本機のスリープタイマーで切ることはできません。再生する機器にスリープタイマー機能がある場合は、その機器側でもスリープタイマーを設定してください。
- タイマー再生したいときは、接続している機器のタイマーを使用します。本機では再生したい入力ソースを選んで、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。
- リモコンのSTANDBY/ONキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除されます。

セットメニューで設定を変更する

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューが用意されています。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。

テレビ画面に表示されるセットメニューを日本語にすることができます。OPTIONメニューの「GUI Language」の設定を行ってください。初期設定は「English(英語)」です。→P.67「表示言語を設定する－GUI Language(GUI使用言語)」

アドバイス

- 再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。

注 意

- ナイトリスニングモードで再生しているときは、一部のセットメニューが設定できません。設定する前にナイトリスニングモードを解除してください。→P.55「小さな音量でも音場プログラムを楽しむ(ナイトリスニングモード)」
- 各メニューの名称はテレビ画面に表示される名称で説明していますので、本機ディスプレイに表示される名称とは若干異なります。

セットメニュー一覧

セットメニューは、用途や機能別に4つのグループに分類されています。

BASIC menu(基本設定)

本機を使用する前に、システムにあわせてあらかじめ設定しておく基本的な項目です。以下の2つのメニューがあります。

Speaker Set Up(スピーカー設定)
Speaker Level(スピーカー出力レベル)

詳しい設定内容については「再生の前に行う設定ーBASIC menu(基本設定)」(→P.28)をご覧ください。

SOUND menu(音声設定)

音声出力に関する設定項目です。音質、音色を調節することができます。以下の6つのメニューがあります。

Speaker Set(スピーカー設定)
SP Distance(スピーカーの距離補正)
LFE Level(LFE再生レベル設定)
Dynamic Range(ダイナミックレンジ)
Center SP. GEQ(センターGEQ設定)
SP Tone Control(スピーカー音色設定)
HP Tone Control(ヘッドホン音色設定)

詳しい設定内容については「音声出力を設定するーSOUND menu(音声設定)」(→P.59)をご覧ください。

INPUT menu(入力設定)

信号入力に関する設定項目です。デジタル音声入力端子の割り当てを変更したり、入力モードの適用のしかたを設定することができます。以下の2つのメニューがあります。

Input Assign(入力端子わりあて)
Input Mode(入力モード設定)

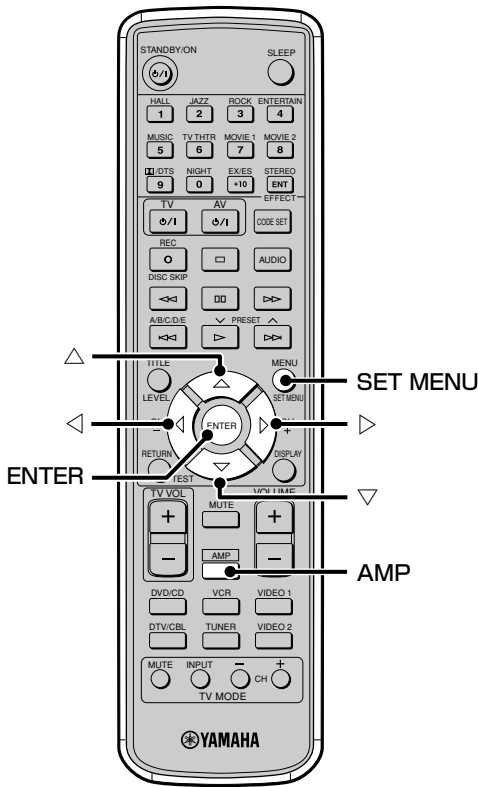
詳しい設定内容については「入力設定を変更するーINPUT menu(入力設定)」(→P.64)をご覧ください。

OPTION menu(その他の設定)

便利な補足設定です。ディスプレイの明るさを変更したり、設定を保護することができます。以下の5つのメニューがあります。

Display Dimmer(表示の明るさ設定)
Memory Guard(設定の保護)
Audio Mute(消音レベル設定)
Dual Mono(二重音声出力設定)
GUI Language(GUI使用言語)

詳しい設定内容については「そのほかの設定ーOPTION menu(その他の設定)」(→P.66)をご覧ください。

セットメニューの操作手順

1 **AMPキーを押す。**

2 **SET MENUキーを押す。**

3 **△または▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューのグループを選ぶ。**

4 **▷キーを押す。**

5 **△または▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。**

注 意

- メニューによっては手順 6 と 7 を行う必要がない場合があります。そのときは手順 8 へ進んでください。

6 **▷キーを押す。**
選んだメニューの設定モードに入り、現在の設定が表示されます。

7 **△または▽キーを押して、設定を変更する項目を選ぶ。**

8 **ENTERキーを押す。**
ディスプレイに表示された項目名の後ろにコロン(:)が点灯します。

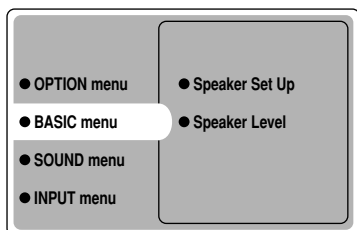
9 **△または▽キーを繰り返し押して、設定を変える。**
項目によっては◁または▷キーで設定を変更する場合があります。

10 **ENTERキーを押す。**
項目名の後ろのコロン(:)が消えます。

11 **セットメニューを終了するときは、SET MENUキーを押す。**

注 意

- 音場プログラムキーを押してセットメニューを終了することもできますが、押したキーによって音場プログラムが切り替わります。

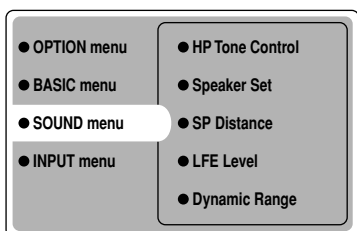
再生の前に行う設定ーBASIC menu(基本設定)

お使いのシステムにあわせて、簡単に再生に適した設定にします。設定のしかたは、「再生の前に行う設定ーBASIC menu(基本設定)」(→P.28)を参照してください。

BASICメニューとSOUNDメニュー

BASICメニューは、SOUNDメニューの「Speaker Set」と「SP Distance」を簡単に設定できるようにしたものです。BASICメニューを使えば、ヤマハが推奨するリスニング環境を簡単に設定することができます。BASICメニューで設定したあとで、SOUNDメニューを設定する必要はありませんが、さらに細かい設定をすることができます。

注 意

- SOUNDメニューの中には、BASICメニューを設定することにより無効になる項目があります。あやまってBASICメニューに入った場合は「Speaker Set Up」の「Setting OK?」でCancelを選ぶか、Setを選んだあとでSOUNDメニューを設定しなおしてください。(→P.29)

音声出力を設定するーSOUND menu(音声設定)

使用するスピーカーの数や大きさ、リスニングポイントとスピーカーとの距離を指定したり、音色や低音域の調節をして、音声出力の設定ができます。
SOUNDメニューの設定を変更したあとは、必ずテストトーンで各スピーカーの音量を調節してください。→P.73「テストトーンを使って調節する」

システムにあわせてスピーカーモードを設定するーSpeaker Set(スピーカー設定)

ご使用になるスピーカーシステムにあわせて、スピーカーモードを設定します。

アドバイス

- スピーカーの大きさを設定するときは、目安として、ウーファーの口径が16cm以下のスピーカーをお使いの場合はSmall(小)、それ以上の口径の場合はLarge(大)をおすすめします。

注 意

- 48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が入力された場合は、項目によっては、設定が再生音声に反映されない場合があります。

Center(センター)

センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを設定します。

選択項目:Large(大)、Small(小)、None(なし)
初期設定:Small(小)

Large
センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

Small
センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「LFE/Bass Out」で選んだスピーカーに出力されます。

None
センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、フロントのL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

Front(フロント)

フロントL/Rスピーカーの性能に応じて、出力モードを設定します。

選択項目:Large(大)、Small(小)
初期設定:Large(大)

Large
フロントスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。フロントL/Rチャンネル信号の全帯域が、そのままフロントL/Rスピーカーに出力されます。

Small
フロントスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。フロントL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「LFE/Bass Out」で選んだスピーカーに出力されます。

注意

- Small設定時でも、「LFE/Bass Out」の設定がFrontの場合は、フロントL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はフロントに出力されます。

Surround L/R(サラウンド)

サラウンドL/Rスピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを設定します。

選択項目:Large(大)、Small(小)、None(なし)
初期設定:Small(小)

Large
サラウンドL/Rスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、サラウンドL/Rスピーカーにサラウンド側サブウーファーをスピーカーケーブルで接続して使用する場合のモードです。サラウンドL/Rチャンネル信号の全帯域が、そのままサラウンドスピーカーに出力されます。

Small
サラウンドL/Rスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。サラウンドL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「LFE/Bass Out」で選んだスピーカーに出力されます。

None
サラウンドL/Rスピーカーを使用しないときのモードです。

アドバイス

- 「Surround L/R」をNoneに設定するとバーチャルシネマDSPモードになります。(→P.49)

注意

- 「Surround L/R」をNoneに設定すると「Surround Back」はメニュー表示されません。

Surround Back(サラウンドバック)

サラウンドバックスピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを設定します。

注意

- 「Surround L/R」がNoneに設定されている場合は設定できません。

選択項目:Large(大)、Small(小)、None(なし)
初期設定:Small(小)

Large
サラウンドバックスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。サラウンドL/Rチャンネルに含まれるサラウンドバック信号の全帯域がそのままサラウンドバックスピーカーに出力されます。

Small
サラウンドバックスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。サラウンドバック信号の90Hz以下の低音域は「LFE/Bass Out」で選んだスピーカーに出力されます。

None
サラウンドバックスピーカーを使用しないときのモードです。サラウンドバックチャンネル信号はサラウンドL/Rチャンネルにミックスされます。

LFE/Bass Out(低域出力設定)

LFE/Bass信号を出力するスピーカーを設定します。
(LFE信号:ドルビーデジタルやDTS動作時に出力される低域効果音。
Bass:90Hz以下の低音域信号。)

選択項目:SWFR(サブウーファー)、Front(フロント)、Both(両方)
初期設定: Both(両方)

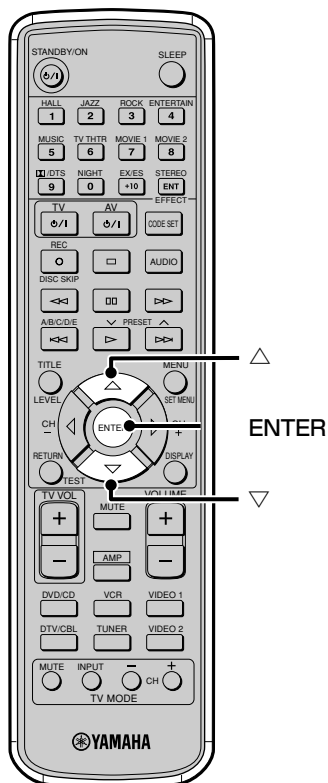
SWFR
サブウーファーを使用する場合のモードです。
LFEと、「Center」~「Surround Back」の設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、サブウーファーに出力されます。

Front
サブウーファーを使用しない場合のモードです。
LFEと、「Center」~「Surround Back」の設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、フロント L/R スピーカーに出力されます。

Both
サブウーファーを使用し、さらにフロントスピーカーモードの設定に関わりなく、フロントスピーカーの90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスする場合のモードです。フロントL/Rの低音域がフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの両方から出力されます。

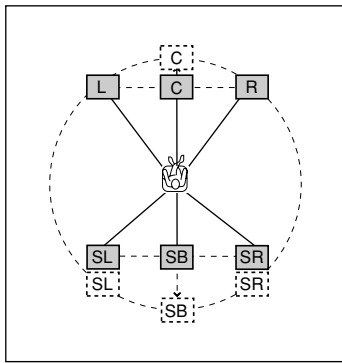
注 意

- 「Center」~「Surround Back」の設定をSmallにすると他チャンネルの低音域(90Hz以下)およびLFE信号が「LFE/Bass Out」で設定されたスピーカーに出力されます。

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定する ーSP Distance(スピーカーの距離補正)

各スピーカーから出た音が同時にリスニングポジションに届くように、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を同一にするのが理想的です。お部屋の都合でスピーカーを等距離に設置できないとき、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することにより、ディレイタイム(遅延時間)が自動的に算出され、各スピーカーからの音が同時にリスニングポジションに届くようになります。

1. **△または▽キーを押して、Unit Setting(距離単位設定)を選ぶ。**
2. **ENTERキーを押す。**
3. **△または▽キーを押して、距離の単位を選ぶ。**
   Meter(メートル)、Feet(フィート)から選びます。

   注 意

   - 選んだ単位により、設定内容(初期設定、設定項目など)が変わります。
4. **ENTERキーを押す。**
5. **△または▽キーを押して、距離を設定するスピーカーを選ぶ。**
6. **ENTERキーを押す。**

□：実際のスピーカー位置
⬚：仮想のスピーカー位置

ディレイタイム(遅延時間)とは
リスニングポイントへの実際のスピーカー音の到達時間と仮想スピーカーからの音の到達時間を比べると、実際のスピーカー音の到達時間が手前に位置している分、早くなります。仮想スピーカーから音が出ているようにするために、本機は実際のスピーカー音を遅らせて出力します。

◁または▷キーを押して、距離を設定する。
◁キーを押すと数値が小さくなり、▷キーを押すと数値が大きくなります。
リスニングポイントからスピーカーまでの距離(実線部)を設定します。設定された値から、すべてのスピーカーが等距離になる仮想のスピーカー位置を割り出し、ディレイタイム(遅延時間)を算出します。

meterで設定する
可変範囲： 0.30〜24.00m(Front、Center、Surround、Surround Back)
初期設定： 3.00m(Front、Center、Surround)、2.10m(Surround Back)

feetで設定する
可変範囲： 1.0〜80.0ft(Front、Center、Surround、Surround Back)
初期設定： 10.0ft(Front、Center、Surround)、7.0ft(Surround Back)

ENTERキーを押す。

LFE(低域効果音)の再生レベルを調節するーLFE Level(LFE再生レベル設定) Speaker(スピーカー)／Headphone(ヘッドホン)

ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。LFE信号とは、意図されたシーンでのみ出力される重低音による効果音です。

可変範囲： −20〜0(dB)
初期設定： 0dB(スピーカー、ヘッドホンとも)

1 **△または▽キーを押して、Speaker(スピーカー)またはHeadphone(ヘッドホン)を選ぶ。**

2 **ENTERキーを押す。**

3 **◁または▷キーを押して、レベルを調節する。**

• 使用するサブウーファーやヘッドホンの能力に応じて、LFEのレベル調節を行ってください。

4 **ENTERキーを押す。**

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを設定するーDynamic Range(ダイナミックレンジ) Speaker(スピーカー)/Headphone(ヘッドホン)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音量から最小音量までの幅)を、3段階から選びます。

選択項目:MAX(最大)、STD(標準)、MIN(最小)
初期設定:MAX(最大)スピーカー、ヘッドホンとも

注 意

- ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このような場合は、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

MAX
信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

STD
ソフト制作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN
小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

センタースピーカーの音色を調節するーCenter SP. GEQ(センターGEQ設定)

センタースピーカーの音色を、フロントL/Rスピーカーの音色とあわせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。100Hz、300Hz、1kHz、3kHzおよび10kHzの周波数が選べます。

可変範囲:−6〜+6(dB)
初期設定:(5バンドともに)0dB

1. **△または▽キーを押して、Center SP. GEQを選ぶ。**
2. **ENTERキーを押す。**
3. **◁または▷キーを押して、調節する周波数を選ぶ。**
4. **△または▽キーを押して、レベルを設定する。**
5. **ENTERキーを押す。**

アドバイス

- **テストトーンを聞きながらセンタースピーカーの音色を調節することもできます。**
  1 手順 ① を行う。
  2 TESTキーを押す。
  フロントLスピーカーからテストトーンが出力されます。
  3 SET MENUキーを押す。
  Center SP. GEQの設定モードに戻ります。
  4 手順 ② 〜 ⑤ を行ってセンタースピーカーの音色を調節する。

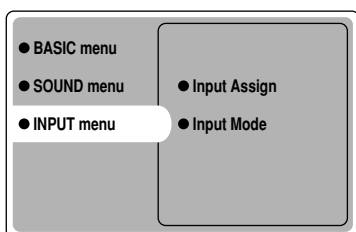
出力音声を調節するーSP Tone Control(スピーカー音色設定)/HP Tone Control(ヘッドホン音色設定)

出力音声の低音域(Bass)および高音域(Treble)を調節します。

可変範囲: SP Tone Control(スピーカー音色設定)
−10〜+10dB(2dBステップ)
60Hz/20kHz
HP Tone Control(ヘッドホン音色設定)
−6〜+3dB(1dBステップ)
60Hz/20kHz

初期設定: Bass(低音域)
0dB 60Hz(スピーカー、ヘッドホンとも)
Treble(高音域)
0dB 20kHz(スピーカー、ヘッドホンとも)

応用操作

入力設定を変更するーINPUT menu(入力設定)

接続した機器にあわせて本機のデジタル入力端子の割り当てを変更したり、入力モードの適用方法を設定することができます。

デジタル入力端子の割り当てを変更するーInput Assign(入力端子わりあて)

接続した機器と、本機のデジタル入力端子名が異なる場合に、接続した機器にあわせて端子を割り当てることができます。割り当てた端子名の入力選択キーで機器を選べます。
ここでは、ゲーム機を接続する場合を例にして、端子の割り当てと入力選択キーの関係について説明します。

注 意

- それぞれの項目(OPTICAL INPUT ①〜 COAXIAL INPUT ③)で、同じ端子名を割り当てることはできません。

OPTICAL INPUT ①(デジタル光入力 ①)

選択項目:VCR、VIDEO 1、DTV/CBL、DVD/CD
初期設定:DVD/CD
例)DVD/CD光入力端子にゲーム機を接続して、端子の割り当てを「VCR」に変更した場合:
入力選択キーのVCRキーを押すとゲーム機を入力できます。

アドバイス

- VCRに割り当てた光入力端子とVCR IN入力端子(アナログ)の両方に同じ機器を接続した場合、入力モードがAUTOに設定してあると光入力端子からの入力が優先されます。

OPTICAL INPUT ②(デジタル光入力 ②)

選択項目:VCR、VIDEO 1、DTV/CBL、DVD/CD
初期設定:DTV/CBL
例)DTV/CBL光入力端子にゲーム機を接続して、端子の割り当てを「VIDEO 1」に変更した場合:
入力選択キーのVIDEO 1キーを押すとゲーム機を入力できます。

アドバイス

- VIDEO 1に割り当てた光入力端子とVIDEO 1音声入力端子(アナログ)の両方に同じ機器を接続した場合、入力モードがAUTOに設定してあると光入力端子からの入力が優先されます。

注 意

- OPTICAL INPUT ①に割り当てられている端子名はディスプレイに表示されず、選ぶことができません。表示されていない端子をOPTICAL INPUT ②に割り当てたいときは、OPTICAL INPUT ①の割り当てを変更してください。

COAXIAL INPUT ③(デジタル同軸入力 ③)

選択項目:VCR、VIDEO 1、DTV/CBL、DVD/CD
初期設定:VIDEO 1
例)VIDEO 1同軸入力端子にゲーム機を接続して、端子の割り当てを「DVD/CD」に変更した場合:
入力選択キーのDVD/CDキーを押すとゲーム機を入力できます。

アドバイス

- DVD/CDに割り当てた光同軸端子とDVD/CD音声入力端子(アナログ)の両方に同じ機器を接続した場合、入力モードがAUTOに設定してあると同軸入力端子からの入力が優先されます。

注 意

- OPTICAL INPUT ①とOPTICAL INPUT②に割り当てられている端子名はディスプレイに表示されず、選ぶことができません。表示されていない端子をCOAXIAL INPUT ③に割り当てたいときは、OPTICAL INPUT ①とOPTICAL INPUT ②の割り当てを変更してください。

入力モードの適用方法を設定するーInput Mode(入力モード設定)

Setting(切り替え設定)

あらかじめ入力端子ごとの入力モードを決めておき、指定した入力モードで入力ソースを再生する場合は「Fixed」を選びます。また、電源を入れたときの入力モードの適用方法を「Variable (Last)」、「Variable (Auto)」から選びます。

選択項目:Fixed(固定)、Variable (Last)(最終設定)、Variable (Auto)(初期AUTO)
初期設定:Fixed(固定)

Fixed:機器を再生すると、ここで設定した入力モードにしたがって入力信号が選ばれます。入力端子ごとに入力モードを設定してください。
Fixedに設定すると、再生するときに本体のINPUTキーで入力モードを切り替えることはできません。

入力端子	入力モード
VCR VIDEO 1 VIDEO 2 DTV/CBL DVD/CD	AUTO: 音声信号を自動検知します。デジタル信号とアナログ信号が同時に入力された場合、デジタル信号を優先して再生します。 dts: DTS信号以外は再生されません。 AAC: AAC信号以外は再生されません。 Analog: アナログ信号以外は再生されません。

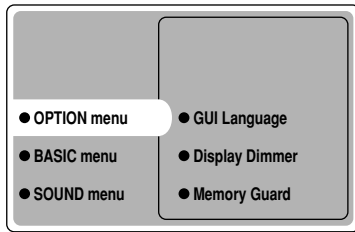
初期設定はAUTOです。

アドバイス

- VCRの設定は、光入力または同軸入力端子の割り当てをVCRに変更した場合に有効になります。

Variable (Last):電源を切るときに設定されていた入力モードが、そのまま適用されます。
必要に応じて、本体のINPUTキーを押して入力モードを切り替えることができます。→**P.70「入力モードを切り替える」**

Variable (Auto):最後に操作したときの入力モード設定に関わらず、本機の電源を入れると入力モードが自動的にAUTOに設定されます。
必要に応じて、本体のINPUTキーを押して入力モードを切り替えることができます。→**P.70「入力モードを切り替える」**

そのほかの設定ーOPTION menu(その他の設定)

ディスプレイの明るさの調節、変更した設定の保護やセットメニューの表示言語などを設定することができます。

表示の明るさを調節するーDisplay Dimmer(表示の明るさ設定)

ディスプレイの明るさを調節します。

可変範囲:−4〜0
初期設定:0

1. **△または▽キーを押して、Display Dimmerを選ぶ。**
2. **ENTERキーを押す。**
3. **◁キーを押す。**
   ディスプレイが暗くなります。▷キーを押すと、明るくなります。
4. **ENTERキーを押す。**

変更した設定値を保護するーMemory Guard(設定の保護)

変更した設定値を保護します。ONに設定すれば、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。

選択項目:ON(保護)、OFF(変更可)
初期設定:OFF(変更可)

ONに設定したときに保護される設定は、以下のとおりです。
- 音場プログラムのパラメーター設定値
- 「Memory Guard」以外のセットメニュー設定値
- センター、サラウンド、サラウンドバック、サブウーファーの音量

注 意

- 設定をONにすると、「Memory Guard」以外のメニューは設定できません。
- 設定をONにすると、テストモードに入れません。

1. **△または▽キーを押して、Memory Guardを選ぶ。**
2. **ENTERキーを押す。**
3. **△または▽キーを押して、ONまたはOFFを選ぶ。**
4. **ENTERキーを押す。**

ミュート(消音)レベルを設定するーAudio Mute(消音レベル設定)

MUTEキーを押したときの音量を設定します。

選択項目:ー∞、ー50dB、ー20dB
初期設定:ー∞

ー∞
完全に消音し、無音にします。

ー50dB
いま聴いている音量よりも、50dB下げて再生します。

ー20dB
いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

1. **△または▽キーを押して、Audio Muteを選ぶ。**
2. **ENTERキーを押す。**
3. **△または▽キーを押して、下げる音量を選ぶ。**
4. **ENTERキーを押す。**

二重音声出力時の出力モードを変更するーDual Mono(二重音声出力設定)

BSデジタル放送などで使われる、モノラル二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定します。

選択項目: All(主+副音声)、Sub(副音声)、Main(主音声)
初期設定: Main(主音声)

All
主音声と副音声をフロントL/Rスピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のL/Rチャンネルへの音声の振り分けは、再生機器(チューナーなど)の設定によって異なります。詳しくは再生機器の取扱説明書を参照してください。

Sub
副音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

Main
主音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

注 意

- モノラルでない二重音声の出力は、本機で設定できません。再生機器側で設定してください。
- この設定は、AAC、ドルビーデジタル、DTS信号の二重音声(デュアルモノ)信号およびAACの多重音声(マルチモノ)信号受信時のみ有効になります。ただし、AAC信号音声の第3、第4チャンネルを選ぶことはできません。再生機器側で設定してください。
- 地上波放送などの、アナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で音声の主/副を選んでください。

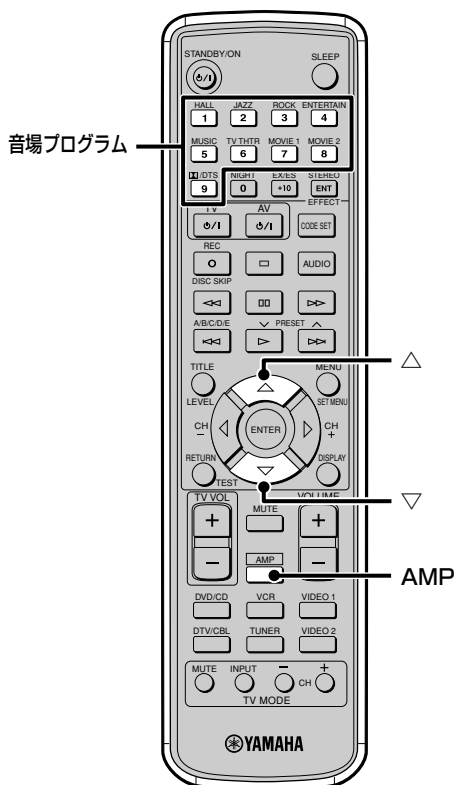
表示言語を設定するーGUI Language(GUI使用言語)

セットメニューのテレビ画面での表示を日本語または英語に設定します。

選択項目: Japanese(日本語)、English(英語)
初期設定: English(英語)

オリジナルのリスニング環境をつくる

音場プログラムは音の拡がりや響き具合などのパラメーターという要素で構成されています。世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで音場測定を行い、その実測データをもとに各音場プログラムは作成されており、音場プログラムごとにパラメーターの値や種類を変えてDSP処理が施されます。
このパラメーターを調節して、さらに独自のリスニング環境をつくることができます。

パラメーターを変更する

音場プログラムのパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、音場プログラムのパラメーターを調節して、独自の音場効果をお楽しみください。

1. **AMPキーを押す。**
2. **音場プログラムを選ぶ。**
3. **△または▽キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ。**
4. **◁または▷キーを押して、設定を変更する。**
5. **ほかの音場プログラムのパラメーターを変更したいときは、手順 2 ～ 4 を繰り返す。**

注 意

- OPTIONメニューの「Memory Guard」がONに設定されている場合は、パラメーターを変更できません。パラメーターを変更する前に、OFFに設定してください。
- 音場プログラムによって、調節できる内容が異なります。各パラメーターの説明をご覧ください。→**P.69「パラメーターガイド」**

パラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。音場プログラムによっては設定できないパラメーターがあります。

DSP LEVEL(DSPレベル)

可変範囲: −6〜+3dB

音場プログラムの効果音のレベルを微調節するパラメーターです。

DELAY(ディレイ)

可変範囲: 1〜99ms(信号、音場プログラムにより変わります)

フロントスピーカーから音が出力されるタイミングと、サラウンドスピーカーからサラウンド音が出力されるタイミングとの時間差を調節します。
値を大きくするほどサラウンド音が遅れて出力され、音場空間が大きく感じられます。

6ch Stereo用

CT LEVEL(センター・レベル)

可変範囲: 0〜100%

6ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。

SL LEVEL(サラウンド・レフト・レベル)

可変範囲: 0〜100%

6ch Stereo音場でのサラウンドLチャンネルの出力レベルを調節します。

SR LEVEL(サラウンド・ライト・レベル)

可変範囲: 0〜100%

6ch Stereo音場でのサラウンドRチャンネルの出力レベルを調節します。

SB LEVEL(サラウンド・バック・レベル)

可変範囲: 0〜100%

6ch Stereo音場でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルを調節します。

PRO LOGIC II/IIx用

PL II/PL IIx

選択項目: PL II、PL IIx

音場プログラムNo.9で2チャンネルソースを多チャンネル化して再生するときに、PL IIまたはPL IIxのどちらで再生するかを選びます。→P.52「2チャンネルソースを多チャンネルで楽しむ(PRO LOGIC、PRO LOGIC II/IIx、DTS Neo:6)」

注 意

- 以下の場合は、PL IIxを選んでいてもPL IIで再生されます。
  - BASICメニューの「Speaker Set Up」の「Speaker Num」で6 speaker以外を選んでいる。
  - SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Surround Back」をNoneに設定している。
  - ヘッドホンを接続している。

PRO LOGIC II/IIx Music用

PANORAMA(パノラマ)

可変範囲: ON、OFF

DOLBY PRO LOGIC II/IIxのフロント音場の拡がり感を調節します。

DIMENSION(ディメンション)

可変範囲: −3〜STD〜+3

DOLBY PRO LOGIC II/IIxのサラウンド音場のフロント側とサラウンド側のレベル差を調節します。

CT WIDTH(センター・ウィドゥス)

可変範囲: 0〜7

DOLBY PRO LOGIC II/IIxのセンター音声の左右への拡がりを調節します。

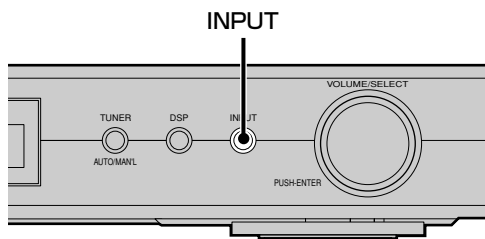
DTS Neo:6 Music用

C. IMAGE(センター・イメージ)

可変範囲: 0〜0.5

DTS Neo:6のフロント音場の拡がり感を調節します。

入力モードを切り替える

同一の再生機器を本機のデジタル音声入力とアナログ音声入力の両端子に接続している場合に入力モードを切り替えることができます。

AUTO(工場出荷時の設定)の設定のままでほとんどのソースを問題なく再生できますが、必要に応じて入力信号のデジタル、アナログの優先順位を選んだり、AACなどの特定の系統に設定したりすることができます。

お好みの入力モードがディスプレイに表示されるまで、本体のINPUTキーを繰り返し押す。

入力モード

AUTO:　音声信号を自動的に検知します。デジタル信号とアナログ信号が同時に入力された場合、デジタル信号を優先して再生します。
DTS:　DTS信号以外は再生されません。
AAC:　AAC信号以外は再生されません。
ANALOG:　アナログ信号以外は再生されません。

アドバイス

- 入力モードがAUTOに設定されているときに、ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、自動的に最適なデコーダーが選ばれます。
- 本機の電源を入れたときに、前回選んだ入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかをINPUTメニューの「Input Mode」で指定することもできます。また、入力端子ごとに入力モードを設定することもできます。

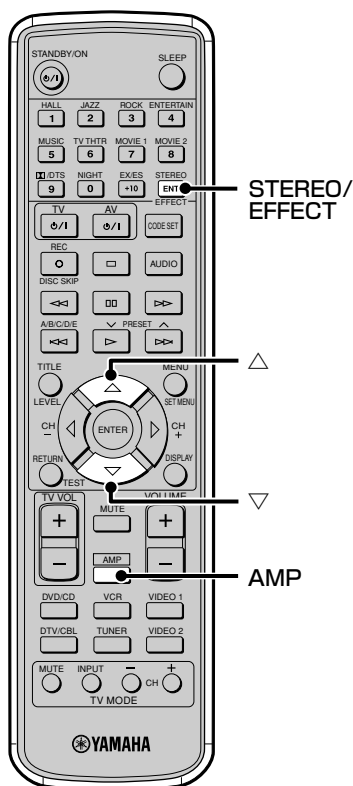
注 意

- 本機と再生する機器をアナログ音声端子だけで接続して入力した場合、入力モードを切り替えることはできません。
- INPUTメニューの「Input Mode」の「Setting」がFixedになっているときは、INPUTキーを押しても入力モードを切り替えることはできません。
- 入力モードがAUTOに設定されているときに、次のような症状が起こることがありますが、故障ではありません。
  – ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ(早送り/早戻し)してから再生をはじめると、一部のLDおよびDVDプレーヤーで、再生音が少し遅れて再生される。
  – デジタル録音されていないLDを再生する場合に、一部のLDプレーヤーで音声が正常に再生できない。この場合は入力モードをANALOGに設定してください。

DTS-CD／DTS-LDの再生に関するご注意

- プレーヤーから出力されるデジタル信号に音量レベル可変処理などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生できません。
- DTS音声を再生するには、音声を再生する機器をデジタル入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生すると、雑音が発生することがあります。
- DTS音声を再生中に入力モードをANALOGに切り替えると、音声は出力されません。
- 入力モードをAUTOに設定してDTS音声を再生すると：
  - DTS信号を検知すると、自動的にDTSモード（dts表示が点灯）に切り替わります。DTS音声の再生が終了したときに、dts表示が点滅することがありますが、点滅中はDTS音声しか再生できません。DTS音声の再生が終了後すぐに、通常のPCM音声を再生したいときは、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
  - プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号がとぎれると、dts表示が点滅することがあります。この状態が30秒以上続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル（PCM）入力に切り替わり、dts表示は消灯します。

入力信号情報を表示する

ステレオ再生中、入力信号のタイプ、フォーマットやサンプリング周波数などの情報をディスプレイに表示させて確認することができます。

1 **ソースを再生する**

2 **AMPキーを押す。**

3 **STEREO/EFFECTキーを押す。**
ステレオ再生になります。

4 **△または▽キーを押す。**
入力信号の情報が表示されます。信号によっては押すたびに情報の表示が切り替わります。

入力信号情報の見方

(Format)：入力信号の信号フォーマット。

入力信号	表示
アナログ音声	ANALOG
PCM音声	PCM
ドルビーデジタル音声	Dolby Digital
DTS音声	DTS
AAC音声	AAC
不明なデジタル信号	Unknwn Digital

in： 入力信号の音声チャンネル数（ドルビーデジタル、DTS、AAC入力時のみ）。
例えば、「in:3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE」を示しています。
また、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネル音声は「1+1」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。

fs： 入力信号のサンプリング周波数（デジタル信号入力時のみ）。サンプリング周波数が不明の場合は、「unknown」と表示されます。

rate： 入力信号の1秒あたりのデータ量=ビットレート（ドルビーデジタル、DTSのみ）。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。

flg： 入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号=フラグ（ドルビーデジタル、DTSのみ）。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

48kHzを超えるデジタル信号についてのご注意

本機のデジタル入力端子（光、同軸）は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。デジタル信号の入力には光／同軸両方の入力端子が使用できますが、48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。

- 音場プログラムを選べなくなります。
- 音声はフロントスピーカーからのみ、通常の2チャンネルステレオ音声として出力されます。
- フロントスピーカーとサブウーファー以外のスピーカーの音量は調節できません。

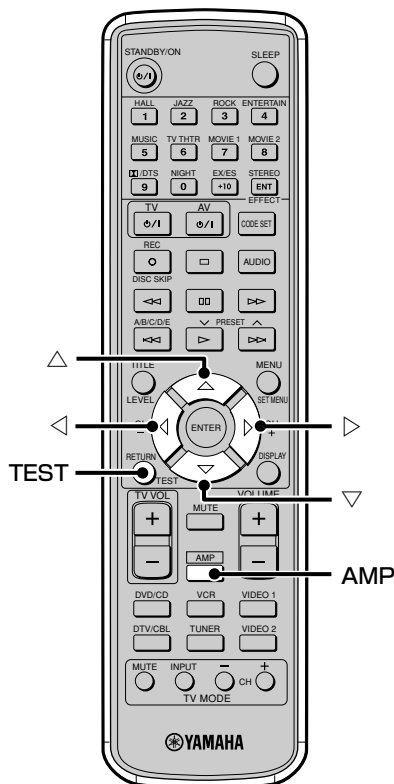
スピーカーの音声出力レベルを調節する

BASICメニューで各スピーカーの音量の確認や調節が済んでいる場合は必要ありませんが、スピーカーの設置場所を変えたり家具の位置を変えたとき、またはSOUNDメニューの設定を変更したときは、テストトーンを出して各スピーカーの音量を調節することをおすすめします。

また、BASICメニューの設定を行わずにSOUNDメニューだけでスピーカーの設定を行った場合は、必ずテストトーンを出して各スピーカーの音量調節をしてください。

この調節は音場プログラムの効果を最大限に引き出したり、ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、ドルビーデジタルやDTS、AACサウンドを忠実に再現するための重要なポイントになります。

テストトーンで調節したあとでも、ソースによっては再生中にスピーカーの音量レベルを調節したい場合があるかもしれません。そのときは**「再生しながら調節する」**(→P.74)をご覧ください。

テストトーンを使って調節する

テストトーンを使って、リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が一定になるように調節します。

1 AMPキーを押す。

2 TESTキーを押す。
テストトーンが出力されます。

3 △または▽キーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。
▽キーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。
TEST LEFT(フロントL)→TEST CENTER(センター)→TEST RIGHT(フロントR)→TEST R SUR.(サラウンドR)→TEST SUR. BACK(サラウンドバック)→TEST L SUR.(サラウンドL)→TEST SUBWOOFER(サブウーファー)→...
△キーを押すと、逆の順に切り替わります。

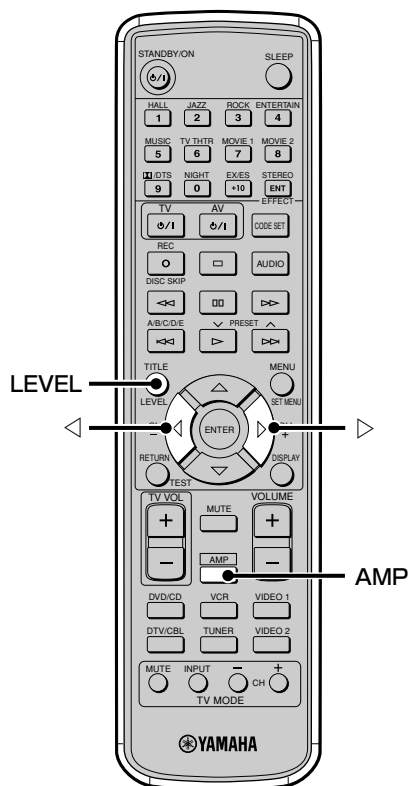
4 ◁または▷キーを押して、スピーカーの音量を調節する。

5 調節が終わったら、TESTキーを押す。
テストトーンが止まります。

応用操作

注 意

- ヘッドホンを接続していると、テストモードに入れません。🎧ヘッドホン端子からヘッドホンを抜いてください。
- 調節できないスピーカーがある場合は、SOUNDメニューの「Speaker Set」でスピーカーモードの設定がNoneになっていないか確認してください。
- SOUNDメニューの「Speaker Set」の「LFE/Bass Out」がFrontに設定されている場合、サブウーファーの音量は調節できません。
- テストトーンで調節したスピーカーの音量は、BASICメニュー「Speaker Set Up」の「Setting OK?」でSetを選ぶと無効になります。調節後はBASICメニューに入らないようご注意ください。あやまってBASICメニューに入った場合は、「Speaker Set Up」の「Setting OK?」でCancelを選んで、メニューから抜けてください。→**P.29「操作の流れ」**

再生しながら調節する

再生音を聴いていて、スピーカーのバランスが良くないと感じたら、各スピーカーの音量レベルを調節します。

1 **AMPキーを押す。**

LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。

LEVELキーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。

FRONT L(フロントL)→CENTER(センター)→FRONT R(フロントR)→R SUR.(サラウンドR)→SUR. BACK(サラウンドバック)→L SUR.(サラウンドL)→SWFR(サブウーファー)→FRONT L(フロントL)→...

アドバイス

- LEVELキーでレベル表示にすると、△または▽ キーでもスピーカーを選べます。

◁または▷キーを押して、スピーカーの音量を調節する。

- センター、サラウンドL/RおよびサラウンドバックスピーカーSの調節範囲は、−10～+10dBです。
- フロントL/Rスピーカーおよびサブウーファーの調節範囲は、−20～0dBです。

注 意

- 調節できないスピーカーがある場合は、SOUNDメニューの「Speaker Set」でスピーカーモードの設定がNoneになっていないか確認してください。
- SOUNDメニューの「Speaker Set」の「LFE/Bass Out」がFrontに設定されている場合、サブウーファーの音量は調節できません。
- LEVELキーでスピーカーの音量を調節すると、テストトーンで調節したスピーカーの音量も変更されます。
- LEVELキーで調節したスピーカーの音量は、BASICメニュー「Speaker Set Up」の「Setting OK?」でSetを選ぶと無効になります。調節後はBASICメニューに入らないようご注意ください。あやまってBASICメニューに入った場合は、「Speaker Set Up」の「Setting OK?」でCancelを選んで、メニューから抜けてください。→**P.29「操作の流れ」**

リモコンを使いこなす

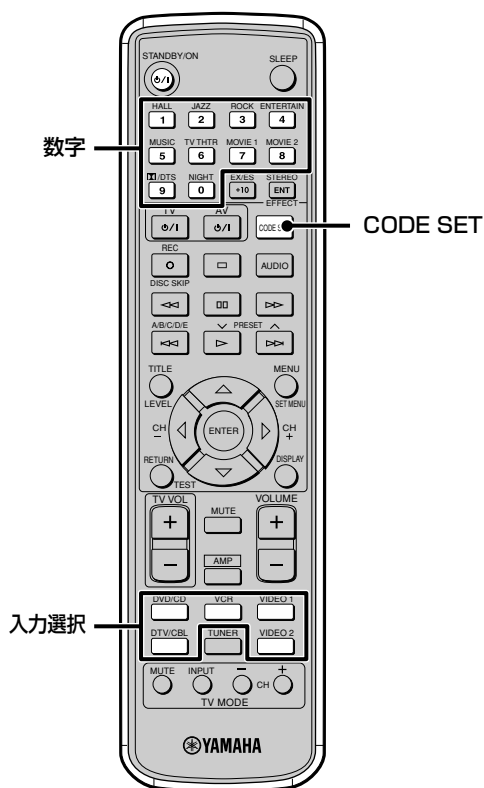
メーカーコード(各メーカーごとに割り当てられた信号)を本機のリモコンに設定すると、接続したテレビやビデオデッキ、DVDプレーヤーを本機のリモコンで操作できます。

注 意

- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。その場合はテレビやビデオデッキ、DVDプレーヤー専用のリモコンをお使いください。

リモコンにメーカーコードを設定する

TUNERキー以外の入力選択キーに以下のメーカーコードを設定できます。

入力選択キー	設定できるメーカーコード
DTV/CBLキー	テレビまたは 衛星放送／CATVチューナー
DVD/CDキー VCRキー VIDEO 1キー VIDEO 2キー	ビデオデッキまたは DVDプレーヤー

メーカーコードを設定すると、「操作できる機能一覧」(→P.77)の操作が可能になります。

1 CODE SETキーを押したまま、入力選択キーを押す。
1つのキーに1つのメーカーコードが設定できます。

2 CODE SETキーを押したまま、使用する機器のメーカーコード(3桁)を数字キーで入力する。
「メーカーコード一覧」(→P.86)をご覧ください。

アドバイス

- 設定に成功すると、「Code Set OK」がディスプレイに表示されます。失敗すると「Code Set NG」が表示されるので、手順 ❶ からもう一度操作してください。

注 意

- 何も操作しないまま10秒間放置すると、設定が中断されます。このような場合は、手順 ❶ からもう1度設定をやりなおしてください。

アドバイス

- 次の入力選択キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのメーカーコードが設定されています。
  DTV/CBLキー:テレビのメーカーコード299
  VCRキー:ビデオデッキのメーカーコード399
  DVD/CDキー: DVDプレーヤーのメーカーコード699
  ヤマハの機器をお使いの場合は、まず工場出荷時のまま操作してみてください。

注 意

- お使いのヤマハ機器によっては、あらかじめ設定されているヤマハのメーカーコードで操作できない場合があります。この場合はヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

リモコンを工場出荷時の設定に戻す

設定したメーカーコードを取り消すことができます。

1 CODE SETキーを押したまま、設定を戻したい入力選択キーを押す。

2 CODE SETキーを押したまま、次の3桁の数字を数字キーで入力する。

テレビまたは衛星放送／CATVチューナーのメーカーコードを設定したとき：299

ビデオデッキのメーカーコードを設定したとき：399

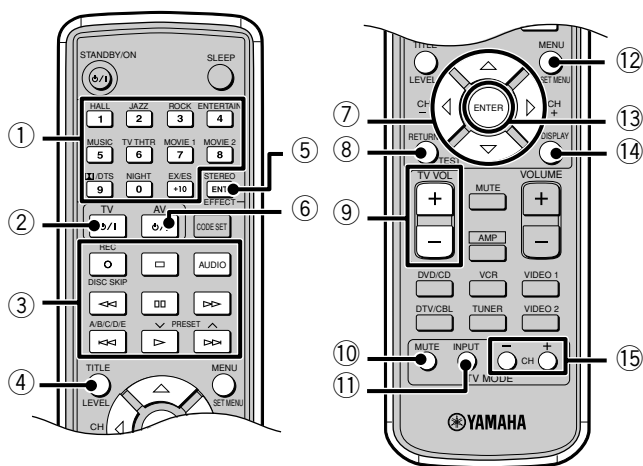
DVDプレーヤーのメーカーコードを設定したとき：699

注 意

- 何も操作しないまま10秒間放置すると、設定が中断されます。このような場合は、手順 1 からもう1度やりなおしてください。

メーカーコードの保持について

乾電池は、使えなくなる前に早めに交換してください。乾電池の寿命がなくなったり、乾電池を取り出した場合、お客様ご自身で設定されたメーカーコードは約2分間保持されますが、2分以上経過すると消えてしまうことがありますのでご注意ください。また、このときリモコンのキーを誤って押すと、メーカーコードが消えてしまうことがありますのでご注意ください。

操作できる機能一覧

メーカーコードを設定すると、①～⑮のキーの機能がテレビ、衛星放送／CATVチューナー、ビデオデッキ、DVDプレーヤー操作用に切り替わります。
はじめにメーカーコードを設定した入力選択キーを押し、各機器を操作してください。操作できる機能については以下の表をご覧ください。

注 意

- ご使用の機器によっては、キーと操作の説明が一致しないことがあります。

	操作できる機能			
リモコンのキー	DVDプレーヤー	ビデオデッキ	テレビ、衛星放送／CATVチューナー	本機のチューナー
① 1～9、0、＋10	数字キー	数字キー	数字キー	登録局選択（1～8）
② TV	（テレビ）POWER*1	（テレビ）POWER*1	POWER*2	（テレビ）POWER*1
③ REC/DISC SKIP	ディスクスキップ	録画	（ビデオデッキ）録画*3	—
◁◁	早戻し	巻戻し	（ビデオデッキ）巻戻し*3	—
▷▷	早送り	早送り	（ビデオデッキ）早送り*3	—
AUDIO	オーディオメニュー	—	—	—
▯▯	一時停止	一時停止	（ビデオデッキ）一時停止*3	—
⧏◁	チャプタースキップ（－）	—	—	A/B/C/D/E
▷⧐	チャプタースキップ（＋）	—	—	登録局選択（＋）
□	停止	停止	（ビデオデッキ）停止*3	—
▷	再生	再生	（ビデオデッキ）再生*3	登録局選択（－）
④ TITLE	タイトルメニュー	—	—	—
⑤ ENT	タイトル／インデックス表示	—	数字キー（12）	—
⑥ AV	POWER*2	POWER*2	（ビデオデッキ）POWER*3	—
⑦ △	選択（上へ）	—	—	—
▽	選択（下へ）	—	—	—
CH ＋▷	選択（右へ）	チャンネル選択（＋）	—	—
CH －◁	選択（左へ）	チャンネル選択（－）	—	—
⑧ RETURN	前の画面へ戻る	—	—	—
⑨ TV VOL ＋	（テレビ）音量（＋）*1	（テレビ）音量（＋）*1	音量（＋）	（テレビ）音量（＋）*1
TV VOL －	（テレビ）音量（－）*1	（テレビ）音量（－）*1	音量（－）	（テレビ）音量（－）*1
⑩ TV MUTE	（テレビ）消音*1	（テレビ）消音*1	消音	（テレビ）消音*1
⑪ TV INPUT	（テレビ）入力切替*1	（テレビ）入力切替*1	入力切替	（テレビ）入力切替*1
⑫ MENU	メニュー	—	—	—
⑬ ENTER	メニュー決定	—	—	—
⑭ DISPLAY	ディスプレイ表示	—	—	—
⑮ TV CH ＋	（テレビ）チャンネル選択（＋）*1	（テレビ）チャンネル選択（＋）*1	チャンネル選択（＋）	（テレビ）チャンネル選択（＋）*1
TV CH －	（テレビ）チャンネル選択（－）*1	（テレビ）チャンネル選択（－）*1	チャンネル選択（－）	（テレビ）チャンネル選択（－）*1

*1 DTV/CBLキーにテレビのメーカーコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもテレビを操作できます。
*2 機器のリモコンにPOWERキーがあるときのみ、機能します。
*3 VCRキーにビデオデッキのメーカーコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもビデオデッキを操作できます。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

全般

電源を入れてもすぐに切れてしまう

原因 1 電源コードの接続が不完全。

解決方法 電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。

原因 2 （再度電源を入れたときに「CHECK SP WIRES」と表示される場合）スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。

解決方法 すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。（→P.18）

原因 3 内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。

解決方法 ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。

電源スイッチを押しても電源が入らない

原因 1 電源コードの接続が不完全。

解決方法 電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。（→P.27）

原因 2 内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。

解決方法 ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。

使用中に突然電源が切れる

原因 機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。

解決方法 温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。

音声や画像が出ない

原因 1 接続が不完全。

解決方法 接続を確認してください。（→P.19）

原因 2 再生するソースの選択が適切でない。

解決方法 入力機器を正しく選んでください。（→P.32）

原因 3 スピーカーの接続が不完全。

解決方法 接続を確認してください。（→P.18）

原因 4 音量が絞られている。

解決方法 音量を大きくしてください。（→P.33）

原因 5 消音されている。

解決方法 リモコンのMUTEキーまたはVOLUME ＋/－キーを押して消音を解除してください。（→P.33）

音声が突然出なくなる

原因 1 機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。

解決方法 温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。

原因 2 スリープタイマーが作動した。

解決方法 電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。

原因 3 消音した。

解決方法 リモコンのMUTEキーまたはVOLUME ＋/－キーを押して消音を解除してください。（→P.33）

片側のチャンネルの音声がほとんど出ない

原因 接続が不完全。

解決方法 接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。（→P.18）

エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL／R、サラウンドセンター）から音声が出ない

原因1 ステレオ再生をしている（ディスプレイにSTEREO表示が点灯している）。

解決方法 STEREO/EFFECTキーを押して、音場効果をオンにしてください。（→P.53）

原因2 ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号でエフェクトチャンネル信号が入っていないソースを再生している。

解決方法 別の音場プログラムを選んでください。（→P.37）

原因3 サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号が本機に入力されている。

解決方法 サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号入力時は、エフェクトスピーカーから音声は出ません。

センタースピーカーから音声が出ない

原因1 センタースピーカーのレベルが絞られている。

解決方法 センタースピーカーのレベルを上げてください。（→P.73）

原因2 SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Center」がNoneに設定されている。

解決方法 センタースピーカーモードを正しく設定してください。（→P.59）

原因3 Hi-Fi DSP音場プログラム（1～4）を選んでいる（「6ch Stereo」と「Game」は除く）。

解決方法 DSP処理の仕様により、入力信号のフォーマットによっては、センタースピーカーからの音声出力がない場合があります。

サラウンドL／Rスピーカーから音声が出ない

原因1 サラウンドL／Rスピーカーのレベルが絞られている。

解決方法 サラウンドL／Rスピーカーのレベルを上げてください。（→P.73）

原因2 SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Surround L/R」がNoneに設定されている。

解決方法 サラウンドスピーカーモードを正しく設定してください。（→P.60）

原因3 音場プログラム9で、モノラルソースを再生している。

解決方法 別の音場プログラムを選んでください。（→P.37）

サラウンドバックスピーカーから音声が出ない

原因1 サラウンドバックスピーカーのレベルが絞られている。

解決方法 サラウンドバックスピーカーのレベルを上げてください。（→P.73）

原因2 SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Surround L/R」がNoneに設定されている。

解決方法 サラウンドスピーカーモードがNoneに設定されると、自動的にサラウンドバックスピーカーモードもNoneに設定されます。サラウンドスピーカーモードを正しく設定してください。（→P.60）

原因3 SOUNDメニューの「Speaker Set」の「Surround Back」がNoneに設定されている。

解決方法 サラウンドバックスピーカーモードを正しく設定してください。（→P.60）

サブウーファーから音声が出ない

原因 1 SOUNDメニューの「Speaker Set」の「LFE/Bass Out」をFrontに設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。

解決方法 SWFRまたはBothに設定してください。（→P.61）

原因 2 SOUND メニューの「Speaker Set」の「LFE/Bass Out」をSWFRまたはFrontに設定したまま、2チャンネル信号を再生している。

解決方法 Bothに設定してください。（→P.61）

原因 3 再生しているソースにLFEや低音信号（90Hz以下）が含まれていない。

ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTS表示が点灯しない）

原因 接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。

解決方法 お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。

低音の再生不良

原因 サブウーファーを使用していないのに、SOUNDメニューの「Speaker Set」の「LFE/Bass Out」をSWFRまたはBothに設定している。

解決方法 Frontに設定してください。（→P.61）

ハム音が出る

原因 1 SOUNDメニューの各スピーカーモードがスピーカー構成に一致していない。

解決方法 各スピーカーモードを適切に設定してください。（→P.59）

原因 2 ステレオピンケーブルの接続が不完全。

解決方法 ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。（→P.19）

音量を上げることができない、または音が歪んでいる

原因 本機のVCR OUT端子に接続された機器の電源が入っていない。

解決方法 AVアンプという製品ジャンルの特性上、VCR OUT端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。

サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない

原因 サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。

録音できない

原因 本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。

解決方法 アナログ接続をしてください。（→P.19）

セットメニューを設定できない

原因 OPTIONメニューの「Memory Guard」がONに設定されている。

解決方法 OFFに設定してください。（→P.66）

セットメニューなどの設定内容が消えている

原因 1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。

解決方法 1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。

本機が正常に作動しない

原因 内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。

解決方法 ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。

本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む

原因 本機の電源がスタンバイ状態になっている。

解決方法 本機の電源を入れてください。(→P.27)

デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている

原因 本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。

解決方法 本機をそれらの機器から離して設置してください。

FM／AM放送の受信

FM／AM

プリセット選局ができない

原因 プリセット(メモリー)が消えている。

解決方法 1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。(→P.39)

FM

ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい

原因 FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。

解決方法 1 アンテナの接続を確認してください。(→P.25)

解決方法 2 屋外アンテナを多素子のものに変えてください。

解決方法 3 マニュアル選局をしてください。(→P.38)

FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い

原因 マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。

解決方法 アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。

オート選局ができない

原因 FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。

解決方法 1 マニュアル選局をしてください。(→P.38)

解決方法 2 屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。

AM

オート選局ができない

原因 電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。

解決方法 1 AMループアンテナの方向を変えてください。(→P.26)

解決方法 2 マニュアル選局をしてください。(→P.38)

「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る

原因 空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。

解決方法 AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。

「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る

原因 本機の近くでテレビを使用している。

解決方法 本機からテレビを離してください。

雑音が入る

原因 1 AMループアンテナをスピーカーケーブルの近くに置いている。

解決方法 AMループアンテナをスピーカーケーブルから離してください。

原因 2 AM端子とGND端子のコードが逆になっている。

解決方法 AM端子に白いコードを、GND端子に黒いコードを差し込んでいるか確かめてください。

リモコン

リモコンで操作できない

原因 1　リモコン操作範囲から外れている。

解決方法　本体のリモコン受光部から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。(→P.12)

原因 2　受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。

解決方法　照明、または本体の向きを変えてください。

原因 3　乾電池が消耗している。

解決方法　乾電池をすべて交換してください。(→P.11)

接続した機器がリモコンで操作できない

原因 1　操作する機器が選ばれていない。

解決方法　入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。(→P.75)

原因 2　メーカーコードが正しく設定されていない。

解決方法　メーカーコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。(→P.75)

原因 3　メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。

用語解説

あ

音場

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聞こえてくる「直接音」のほかに、床や壁、天井などに一回反射してから聞こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰していく「後部残響音」を聞くことになります。
建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

さ

サイレントシアター

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

サンプリング周波数／量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

シネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組みあわせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

た

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのフロントチャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャンネル（フロントL／R、センター）と、サラウンドのステレオ2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンドがステレオ 2チャンネルで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースにサラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています。（サラウンドバックチャンネルはサラウンドＬとサラウンドＲチャンネルから作られます。）ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモード、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

ドルビープロロジックIIx
本機は2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを加えた最大6.1チャンネルで再生することができます。また、5.1チャンネルソースについても、優れた分離感を保ちながら、最大6.1チャンネルでお楽しみいただけます。映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。5.1チャンネルソースを再生しているときは、MovieモードとGameモードを選ぶことはできません。

は

バーチャルシネマDSP
サラウンドスピーカーを設置していなくても、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL／Rの2スピーカーシステムでバーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

A

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）
MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

D

DTS（デジタル・シアター・システムズ）デジタルサラウンド
DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の5チャンネル（フロントL／R、センター、2つのサラウンドチャンネル）、さらにサブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネルで構成されています。

DTS-ES
本機は5.1チャンネルのソースにサラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするDTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生するディスクリート方式と、サラウンドL／Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生するマトリクス方式の2つの方式に対応しています。DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

DTS Neo:6
2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースにあわせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

L

LFE（ローフリケンシーエフェクト）0.1チャンネル
音声成分の帯域が20〜120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

P

PCM（リニアPCM）
MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDやDVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

主な仕様

オーディオ部

定格出力（1kHz、0.9% THD、6Ω）
フロントL/R .... 70W＋70W
センター 70W
サラウンドL/R .... 70W＋70W
サラウンドバック 70W
実用最大出力（EIAJ、1kHz、10% THD、6Ω）
フロントL/R 100W
センター 100W
サラウンドL/R 100W
サラウンドバック 100W
ダンピングファクター（20Hz～20kHz、8Ω）
フロントL/R 100以上
入力感度/インピーダンス
DVD/CD他 150mV/47kΩ
出力電圧/インピーダンス
VCR OUT 150mV/820Ω
SUBWOOFER 3.8V/1.2kΩ
ヘッドホン出力 100mV/100Ω
周波数特性（DVD/CD他－フロントL/R）
.... 20Hz～50kHz、0/－3dB
全高調波歪率（DVD/CD他－フロントL/R）
1kHz、35W、6Ω 0.04%以下
S/N比（IHF-Aネットワーク、入力ショート）
DVD/CD（250mV）－フロントL/R
.... 98dB以上
残留ノイズ（IHF-Aネットワーク）
フロントSP OUT 150μV以下
チャンネルセパレーション
（5.1kΩターミネート、1kHz/10kHz）
DVD/CD他 60dB以上/45dB以上
トーンコントロール
BASS .... ±10dB/60Hz
TREBLE .... ±10dB/20kHz

ビデオ部

ビデオ信号方式 .... NTSC
S/N比 50dB以上
周波数帯域（映像出力） .... 5Hz～10MHz/－3dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz
実用感度（IHF） .... 2.8μV（20.2dBf）
S/N比（IHF）
モノ 73dB
ステレオ 70dB
歪率（1kHz）
モノ 0.5%
ステレオ 0.5%

AMチューナー部

受信周波数 .... 531kHz～1611kHz

総合

電源電圧 .... AC100V、50/60Hz
消費電力 145W
待機時消費電力 0.9W
寸法（幅×高さ×奥行き）... 435×55.5×330mm
質量 6.4kg

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

メーカーコード一覧

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。設定方法については「**リモコンにメーカーコードを設定する**」（→P.75）を参照してください。

テレビ、衛星放送／CATVチューナー（国内での使用には太字のコードをお薦めします。）

メーカー名	メーカーコード				
ヤマハ	299	292			
Admiral	292	293			
アイワ	**276**	**283**	**284**	294	
Akai	295	296			
Alba	296				
AOC	297				
Bell＆Howell	292				
Bestar	298				
Blaupunkt	229	222			
Blue sky	298				
Brandt	223				
Brocsonic	297				
Bush	296				
Candle	297				
Citizen	297				
Clatronic	298				
Craig	224				
Croslex	225				
Curtis Mathis	297	226			
Daewoo	297	298	224	227	228
Daytron	239				
Dual	298				
Emerson	297	224	239	232	
Ferguson	223	265	266		
First line	298				
Fisher	295	233			
Fraba	298				
フナイ	**277**	**278**			
GE	293	297	234	235	236
Gibralter	297				
Goodmans	296	298	223		
Grundig	229	238	249		
日立	**285**	297	239	242	243
ICE	296				
Irradio	296				
Itt／Nokia	244	245			
JC Penny	293	297	234	237	
JVC（ビクター）	**286**	296	246	247	
Kendo	298				
KTV	297	239			
Loewe	298	248			
LXI	293	297	225	226	233
Magnavox	297	225	239		
Matsui	295				
三菱	**287**	299	297	259	

メーカー名	メーカーコード						
NEC	**282**	297	252				
Nokia	244	245					
Nokia Oceanic	245						
Nordmende	265	266					
Onwa	296						
パナソニック	**288**	**211**	234	235	236	253	
Philco	297	225	239				
Philips	225						
パイオニア	**254**	226	235	255	268		
Portland	297	256					
Quasar	234	235					
Radio Shack	299	293	297				
RCA	293	297	234	256	257	258	
SABA	223	269	265	266			
Samsung	297	239	248	262	275		
サンヨー	**273**	**212**	295	233	279	272	274
Schneider	296						
Scott	297						
シャープ	**213**	**216**	292	239	232		
Siemens	229						
Signature	292						
ソニー	**214**	263					
Telefunken	269	264	265	266			
Thomson	223	266					
東芝	**215**	292	226	267			
Videch	297	242					
Wards	297	239	232				

ビデオデッキ

メーカー名	メーカーコード				
ヤマハ	399	392	393	394	
Admiral	395				
アイワ	396	397	398	329	339
Akai	322	323	324		
Audio Dynamic	392	394			
Bell＆Howell	393				
Blaupunkt	325	326			
Brocsonic	327				
Bush	322				
Canon	325	328			
CGM	396	332			
Citizen	396				
Craig	396				
Curtis Mathis	397	328	333		
Daewoo	328	334	335		
DBX	392	394			
Dimensia	333				
Emerson	327	334			
Fisher	393	336			
フナイ	397				
GE	328	333	387	363	
Goodmans	334	337			
Grundig	332	338			

メーカー名	メーカーコード							
日立	325	333	349	342	343			
Instant Replay	325	328						
Itt／Nokia	393							
JCL	328							
JC Penny	392	393	394	328	333	349		
JVC（ビクター）	392	394	344	345	346	347		
Kendo	396							
Kenwood	392	394	396					
LG／Goldstar	396	388						
Loewe	396	337						
Luxor	395							
LXI	393	396	397	336	349			
Magnavox	325	326	328					
Marantz	392	394	328					
Marta	396							
Matsui	396							
Memorex	328	336						
Minolta	333	349						
三菱	399	344	348	359	352	353		
Multitech	397	348	354					
NEC	392	394	344	383				
Nokia	393	395						
Nokia Oceanic	395							
Okano	323							
Olympic	325	328						
Orion	327							
パナソニック	325	328	355	384	385	386		
Pentax	333	349						
Philco	325	328						
Philips	325	326	328	337	356	357		
Phonola	337							
パイオニア	325							
Quasar	325	328						
RCA／PROSCAN	325	326	328	333	335	349	358	
Realistic	393	397	328	336	359	362		
Samsung	354	358	363	364	365	366		
Sansui	394							
サンヨー	393	336	367					
Schneider	337							
Scott	399	335	336	348	359	352	354	358
Sears	328	342	396					
Seleco	322							
シャープ	395	362	382					
Siemens	393							
Signature 2000	395	397						
ソニー	368	379	372	373	374	375		
Sylvania	397	325	326	328				
Symphonic	397							
Tandberg	334							
Tashiro	396							

メーカー名	メーカーコード							
Tatung	392	394						
Teac	392	394	397					
Technics	325	328						
Teknika	328	396	397					
Telefunken	376	377						
Thorn	393	396						
東芝	335	389						
Universum	396	327	376					
W.WHouse	396							
Wards	395	396	336	362	328	342	363	397

DVDプレーヤー

メーカー名	メーカーコード		
ヤマハ	699	622	623
デノン	623	624	
フナイ	625		
日立	626		
JVC(ビクター)	627		
ケンウッド	628		
LG／Goldstar	645		
三菱	629		
オンキョー	632	633	634
パナソニック	623	635	
Philips	699	647	
パイオニア	636	637	638
RCA	639		
Samsung	642		
シャープ	643		
ソニー	644		
Thomson	646		
東芝	634	648	649

索引

ア行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

A、B、C、D、E、F

G、H、I、J、K、L

M、N、O、P、Q、R

S、T、U、V、W、X、Y、Z

ディスプレイ（アルファベット順）

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**
◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL （0570）01 – 1808（ナビダイヤル）
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL （053）460 – 3409

FAX （053）460 – 3489
住所 〒430-8650
静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00～12:00，13:00～18:00
（日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。）

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

（ヤマハ電気音響製品サービス拠点）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ（株）和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ（株）名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ（株）千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四　国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
（株）ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1

Printed in Malaysia WC19100-1